

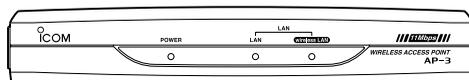
ICOM[®]

取扱説明書

/// 11Mbps ///

WAVEMASTER[®]

WIRELESS ACCESS POINT
AP-3



Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、無線LAN機能を備えたWIRELESS ACCESS POINTです。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom.Inc、iCOM は、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本製品の概要について

本製品の設定は、すべてWWWブラウザから行えます。

無線LANと有線LANの環境を融合するネットワークの構築が簡単に実現できます。

無線アクセスポイント(ローミングを含む)機能を搭載しています。

11Mbps対応の無線アクセスポイント通信および100BASE-TXによる有線LAN通信に対応しています。

すべての弊社製無線通信LANカードに対応しています。

(2001年5月現在)

MACアドレス登録、さらにWEP機能による暗号化処理など、高度なセキュリティ機能を搭載しています。

ユーザー登録について

本製品のユーザーサポート用愛用者カードに必要な事項をご記入いただき、必ずご返送ください。

ご返送いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

はじめに

無線通信LANカードについて

本製品に使用する無線通信LANカードが11Mbps対応で、本製品の通信チャンネル(※P 41)の設定を14チャンネル以外でご使用になるときは、次に示す「電波干渉に関するご注意」を必ずお読みください。

電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サービス課 06-6792-4949

情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

電波法上のご注意

本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。

本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。

無線通信LANカードは、電気通信端末機器の適合認定を受けた弊社製品を、ご使用ください。

上記以外の無線通信LANカードを使用して、公衆電話回線に接続することは、法律で禁じられています。

カード本体には、右図のような技適証明  T xxx-xxxxxx
マークと技適証明番号および認定番号が  R xxx-xxxxxx
印刷されたシールが貼られていること

を確認してからご使用ください。

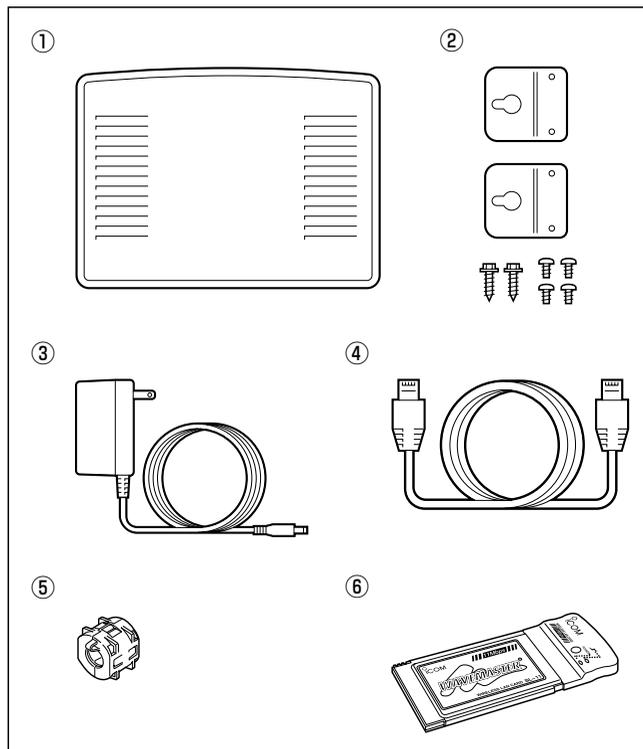


本製品のシリアルナンバーシールに、
右図のようなシールが貼られていると

きは、ご使用の前に、必ず次ページの「電波干渉に関するご注意」をお読みください。

はじめに

標準構成



- ①AP-31台
- ②本体固定用金具1式
- ③ACアダプター(BC-123)1個
- ④ETHERNETケーブル1本
[ETHERNET]ポート接続用
- ⑤フェライトコア(必ず装着してください。P9).....1個
- ⑥無線通信LANカード(本製品装着用)1枚
お買い上げの製品によっては、コンピューター装着用として無線通信LANカードが同梱されています。
- Utility Softwareディスク(AP-3用)2枚
- ユーザーサポート用愛用者カード1枚
- 取扱説明書(本書)
お買い上げの製品によっては、無線通信LANカードの取扱説明書を同梱しています。(コンピューターに装着するとき必要です。)
- 保証書(本製品と無線通信LANカード用)

目次

1. 安全上のご注意(必ずお読みください)	1
2. 各部の名称と機能	5
前面/後面パネル	5
3. 接続の前に	8
3-1.フェライトコアの装着	8
3-2.設置場所	8
3-3.無線通信LANカードの装着	9
装着時のご注意	9
3-4.設置方法	10
1.金具を本製品に固定する	10
2.本製品を固定する	10
3-5.接続時のご注意	12
4. 接続のしかた	13
4-1.コンピューターへの接続	13
4-2.HUBへの接続.....	14
4-3.そのほかの接続	15
5. コンピューターの設定	16
5-1.コンピューターをEthernetでつなぐには	16
Ethernetカードを用意する	16
TCP/IPプロトコルを使えるようにする	16
【Windows Meの場合】	16
【Windows 2000の場合】.....	19
【Mac OSの場合】.....	21
WWWブラウザを用意する	21
5-2.コンピューターを無線LANでつなぐには	22
無線LANカードを用意する	22
TCP/IPプロトコルを使えるようにする	22
【Windows Meの場合】	22
【Windows 2000の場合】.....	25
無線LANカードを設定する	27
WWWブラウザを用意する	28
5-3.設定時のアドバイス	28
6. AP-3の設定	29
6-1.設定の前に	29
6-2.有線端末から設定するには	29
[A] 接続のしかた	29
[B] 起動のしかた	29
6-3.無線端末から設定するには	30
[A] 接続のしかた	30
.....	次ページへつづく

目次

[B] 無線端末の設定	30
[C] 起動のしかた	30
6-4. 割り当てられたIPアドレスを確認するには	31
Windows Meの場合	31
Windows 2000(Professional)の場合	32
Mac OSの場合	33
6-5. 設定画面にアクセスするには	34
6-6. 動作させてみるには	35
7. AP-3の無線機能	37
7-1. 無線アクセスポイント機能	37
7-2. ローミング機能	37
8. 各種設定画面について	40
8-1. [無線LAN設定]画面	40
無線LAN設定	40
SL-1100詳細設定	41
MACアドレスセキュリティ設定	46
8-2. [本体ネットワーク設定]画面	48
ルーティングモード設定	48
本体IPアドレス設定	48
DHCPサーバ設定	49
静的DHCPサーバ設定	51
8-3. [ルーティング設定]画面	52
RIP設定	52
IP経路情報	52
スタティックルーティング設定	54
8-4. [本体管理設定]画面	55
管理者ID設定	55
SYSLOG設定	56
9. 設定の保存と書き込み	57
9-1. [設定保存]画面について	57
9-2. 設定内容の保存	58
9-3. 設定内容の書き込み	59
10. 設定内容の初期化	60
[A] [INIT]ボタンを使う	60
[B] 設定画面を使う	62
11. ファームウェアの更新	63
12. 付属ソフトウェアについて	64
12-1. Utilityとは	64
12-2. インストールのしかた	64
12-3. Utilityの使いかた	65

目次

[A]	「Utility使用データ更新モード」での起動	65
[B]	コンピューターの接続	65
[C]	Utilityの起動	65
[D]	操作のしかた	66
[D]-1	設定内容の初期化操作	66
[D]-2	ファームウェアの更新操作	67
13.	設定画面の構成	69
14.	ご参考に	70
14-1.	設定項目の初期値について	70
14-2.	機能一覧表	70
14-3.	[ETHERNET]ポート	70
14-4.	基本設定例	71
14-5.	応用設定例	72
15.	保守について	73
	本製品への接続を確認するには	73
16.	お問い合わせについて	74
	故障のときは	74
17.	定 格	75
	無線通信LANカード対応表	76
18.	用語解説	77

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- 次の『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■ WIRELESS ACCESS POINT について



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

付属品のACアダプター以外は使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

指定以外の付属品、および別売品は使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

DCジャック以外の端子に電源を接続しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

電源コードや接続ケーブルに、赤ちゃんや小さなお子さまの届かない場所で使用、設置してください。

感電、けがの原因になります。

完全調整していますので、分解、改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

通気口をふさがないでください。

発熱などにより、火災、感電、故障の原因になります。

水などでぬれやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。

感電の原因になります。

設置する場合は、必ずアース線を接続してください。また、アース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。

火災、感電の原因になります。

万一、煙が出ている、変なおいがする、変な音がする、水などが入った場合は、使用を中止してください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

すぐに、本製品に接続するACアダプターのプラグとその他のケーブル類を取り外してください。

煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

屋外に設置しないでください。
故障の原因になることがあります。
ぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因になることがあります。
湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には設置しないでください。
故障の原因になることがあります。
直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所では使用しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
説明とは異なる接続をしないでください。また、本製品への接続を間違えないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。
強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えるところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
故障の原因になることがあります。
近くに雷が発生したときは、ACアダプターを接続しているコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。
ケーブルの接続や切断、または製品の導入や保守の作業も行わないでください。
火災、感電の原因になることがあります。
結露するような場所で使用しないでください。温度差の激しい環境を急に移動した場合、結露するおそれがありますのでご注意ください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
結露した場合、乾燥させるか、長い間同じ環境に置いたあと、ご使用ください。
長時間、使用しないときは、安全のため本製品に接続するACアダプターを取り外してください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。
清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

1 安全上のご注意

■無線通信LANカードについて



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。

感電の原因になります。

取り付けや取り外しは、必ずWIRELESS ACCESS POINTの電源を切ってから行ってください。

火災、感電、故障の原因になります。

取り付けや取り外し、保管するときは、赤ちゃんや小さなお子さまの手の届かない場所で行ってください。

けが、感電の原因になります。

分解や改造は、絶対にしないでください。また、ご自分で修理しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。水や海水につけたり、ぬらさないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

本製品のコネクタ部分に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。

火災、感電、故障の原因になります。



注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

PCMCIAスロットに差し込むときは、無線通信LANカードの裏と表をまちがえないように十分注意してください。

故障の原因になることがあります。

上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。

故障の原因になることがあります。

落としたり、強い衝撃を与えたり、無理にねじったりしないでください。

けが、故障の原因になることがあります。

湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。

火災、感電、故障の原因になることがあります。

テレビやラジオの近くで使用しないでください。

電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

WIRELESS ACCESS POINTを運用中に、取扱説明書の指示を無視して、本製品を取り外さないでください。

故障や、データの消失または破損の原因になることがあります。

強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超える、または結露するところでは使用しないでください。

故障の原因になることがあります。

清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。

ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■ ACアダプターについて



下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

AC 100V以外の電源電圧で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。その他の機器で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。ACコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。
ACコードの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

ACコードを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。
火災、感電、故障の原因になります。ぬれた手でACプラグや機器に絶対触れないでください。
感電の原因になります。
ACコードが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
火災、感電、故障、データの消失または破損の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

取り扱い上のご注意

動作中に接続ケーブルなどが外れたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクタをしっかりと接続して、動作中は、コネクタの接続部に触れないでください。

コンピューターおよびその他の周辺機器の取扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。

本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、本製品を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。本製品に付属するUtility Software ディスク(ファームウェアアップデート用ユーティリティ)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。本製品の設定データファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

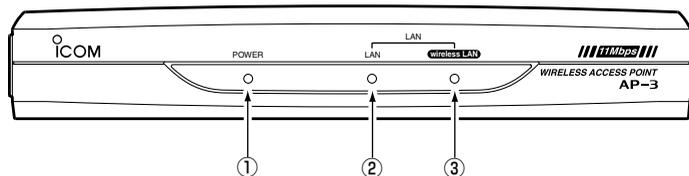
本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。

本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。

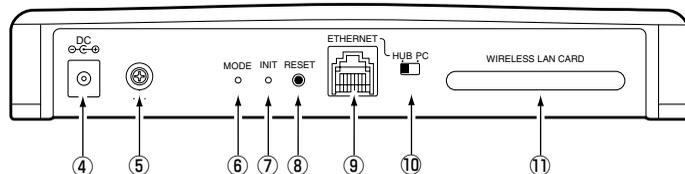
本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

前面/後面パネル

前面パネル



後面パネル



- ① [POWER]ランプ …… AP-3 に電源が入ると、点灯します。
「設定初期化モード」(※P 60)で動作中は、ゆっくり点滅を繰り返します。また、「Utility使用データ更新モード」(※P 65)で動作中は、速く点滅を繰り返します。
- ② [LAN]ランプ …… 有線LAN(ETHERNET)による接続が正常であるとき点灯します。
無線LANまたは有線LANで通信中は、点滅します。
後面パネルの[ETHERNET]ポートが接続を認識できないときは、消灯しますので、結線および[HUB/PC]スイッチの設定を確認してください。(※P 7、13、14)
- ③ **wireless LAN** ランプ …… 本製品へのワイヤレス接続が正常であると点灯します。
無線通信の異常、またはすべての無線端末の無通信状態や無線伝送エリア外に移動するなど、そのような状態が1～2分続くとランプが消灯します。
点灯しないときは、無線端末のIPアドレスや装着する無線通信LANカードの[Network Mode]および[ESS ID]の設定(※P 30)、[MACアドレスセキュリティ]を使用しているときは、その登録状況などを確認してください。
PCMCIAスロットへの装着の有無を確認するランプではありませんのでご注意ください。

- ④ DCジャック フェライトコア(付属品)が装着(☞P 8)された付属のACアダプター(BC-123)を接続します。
- ⑤ アース端子..... アース線を接続する端子です。
アース線は、市販のものをご用意ください。
- ⑥ [MODE]ボタン AP-3 Utilityを使用して、本製品のファームウェア更新または設定内容の初期化を行うとき、本製品を「Utility使用データ更新モード」で動作させるのに使用します。
操作方法については、「12章 付属ソフトウェアについて」(☞P 64)をご覧ください。
- ⑦ [INIT]ボタン..... 本製品の設定内容を工場出荷時の状態に戻すとき、本製品を「設定初期化モード」で動作させるのに使用します。
操作方法については、「10章 設定内容の初期化」をご覧ください。(☞P 60)
- ⑧ [RESET]ボタン 本製品を再起動(電源投入時の状態)するボタンです。
電源を接続しなおしても、同じ状態になります。
- ⑨ [ETHERNET]ポート イーサネットポート(RJ-45型)です。
付属のETHERNETケーブル(ストレート結線)を使って、コンピューターやHUBを接続します。
100BASE-TX(高速有線LAN)通信も可能です。
100BASE-TX通信を行うには、本製品に付属するようなカテゴリ 5 以上のETHERNETケーブルを使う必要があります。
カテゴリの低いものを同じLAN上に混用すると、一番低いグレードに全体のレベルが低下するので、ご注意ください。
電源投入後、本製品を有線LANに接続した状態で、[LAN]ランプが点灯しないときは、[HUB/PC]スイッチを切り替えてください。(☞P 7)
次ページへつづく

2 各部の名称と機能

前面/後面パネル(つづき)

⑩ [HUB/PC]スイッチ

[ETHERNET]ポートの極性を反転させるスイッチです。ETHERNETケーブルの結線の違いや、接続に使用するHUBポートに応じて以下のように切り替えます。

「PC」側：[ETHERNET]ポート内部でクロス(記号:×)結線になります。

ETHERNETケーブル(ストレート結線)を使って、HUBのストレートポート(記号:=)またはコンピューターのETHERNETカード側のポート(記号:=)と接続する場合など

(☞P 13)

「HUB」側：[ETHERNET]ポート内部でストレート(記号:=)結線になります。

ETHERNETケーブル(ストレート結線)を使って、HUBのクロスポート(記号:×)と接続する場合など

(☞P 14)

⑪ PCMCIAスロット ...

弊社製無線通信LANカードの挿入口です。(☞P 9)

無線通信LANカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。

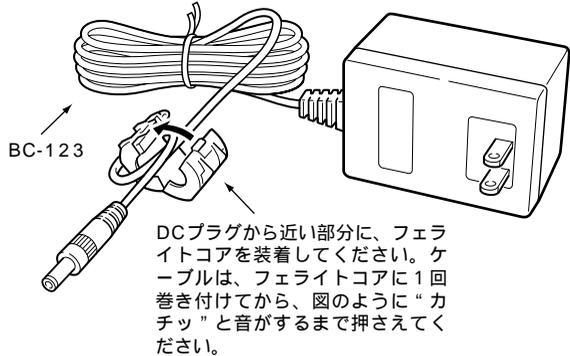
すべての弊社製無線通信LANカードに対応しています。(2001年5月現在)

無線通信LANカードにSL-100を使用する場合は、クライアントに装着する無線通信LANカードについても同機種をご使用ください。

本製品に装着する無線通信カードと異なる弊社製品をご使用になるときは、「無線通信LANカード対応表」(☞P 76)を参考にしてください。

3-1 フェライトコアの装着

図の位置に、本製品に付属のフェライトコアを、付属のACアダプターに取り付けてからご使用ください。
取り付けないと、電波障害を引き起こすことがあります。



3-2 設置場所

【ご参考】

伝送距離は、設置場所や伝送速度によって多少異なりますが、無線通信LANカードの見通し距離を参考に設置してください。
伝送速度によって
屋内：約 50m
屋外：約 150m

無線アクセスポイントを使って通信する場合、設置場所に注意しないと混信したり、通信範囲や速度に影響します。

このときの設置条件は、次のとおりです。

なるべく見通しの良い(高い)場所

振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所

その他、以下のことを考慮して、設置してください。

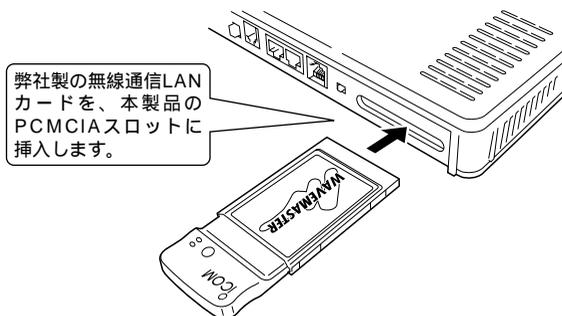
- 本製品の上に物を置いたり、本製品どうしやほかの製品と重ねて置かないでください。
- 強い電波が飛び交う環境(無線局の近く)や強い電磁波が放射(送電用鉄塔付近)される近くには置かないでください。
- 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしでは通信できません。
- 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
- 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。コンクリートの壁でも、金属補強材が埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。

3 接続の前に

3-3 無線通信LANカードの装着

本製品の電源を切ってから、無線通信LANカードを図のように装着してください。

また、取り外すときも同様にして、カード部分を持って引き抜いてください。



装着時のご注意

無線通信LANカードの取り付けや取り外しは、本製品の電源が切れている状態で、行ってください。

電源を入れた状態で行うと、故障の原因になることがあります。

本製品には、無線通信LANカードの専用ドライバーを組み込む必要はありません。設定は、本製品から行います。

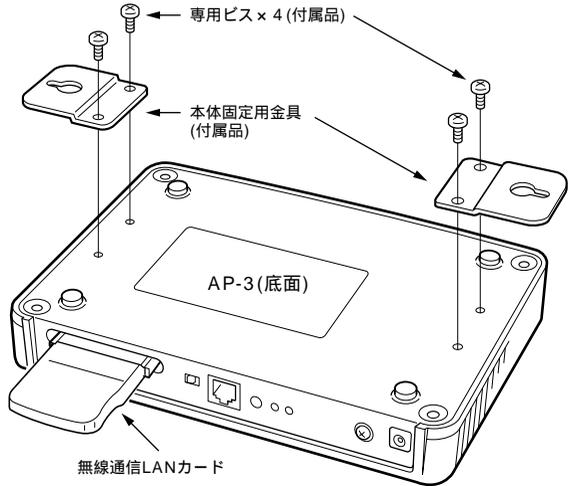
弊社指定以外の無線通信LANカードを本製品に装着しないでください。

装着すると、故障の原因になることがあります。

3-4 設置方法

本製品を壁面や棚などに固定するときは、次の図を参考に付属の固定用金具を取り付けてからご使用ください。

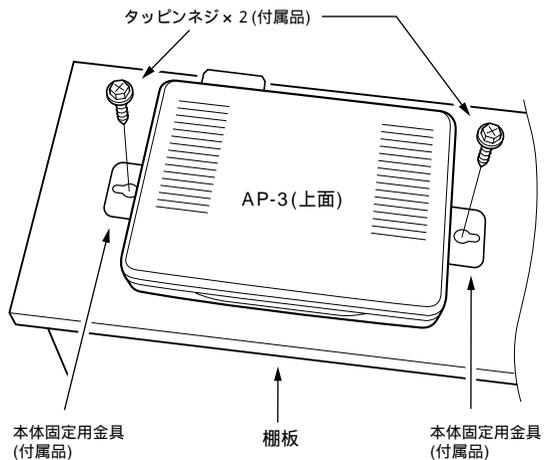
1. 金具を本製品に固定する



2. 本製品を固定する

【棚板の上に固定する場合】

棚の上に置いた場合、本製品に接続された電源コードや接続ケーブルが、人体に触れるおそれがあるときは、落下防止のため、次の図のように、本体を付属の固定用金具で固定してください。

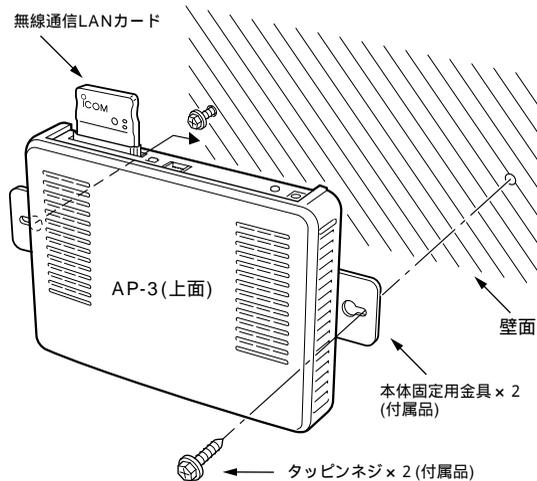


3 接続の前に

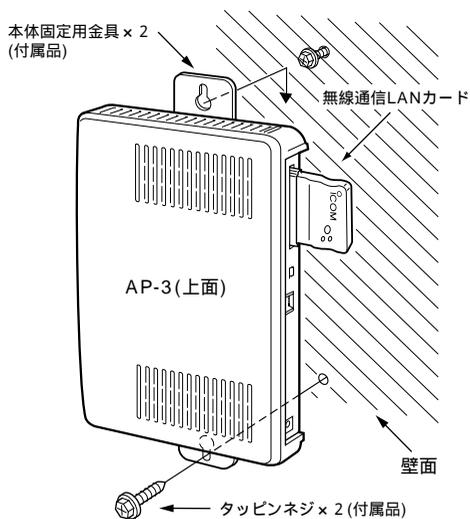
3-4 設置方法

2.本製品を固定する(つづき)

【壁面に、横向きにして固定する場合】



【壁面に、縦向きにして固定する場合】



3-5 接続時のご注意

コンピューターやHUBは、[ETHERNET]ポートに接続してください。

ETHERNETケーブル(ストレート結線)を使って、コンピューターを本製品の[ETHERNET]ポートに接続するときは、[HUB/PC]スイッチを「PC」側に切り替えてください。(※P 7、13)

[ETHERNET]ポートに接続するコンピューターや、HUBに接続するコンピューターには、ETHERNETカード(ボード)が必要です。

無線LANカードの抜き差しは、本製品の電源を切った状態で行ってください。

工場出荷時の状態で、本製品を稼働中のネットワークに接続しないでください。

また、ネットワーク上のコンピューターが本製品に有線および無線で接続されている状態で設定を変更するときは、本製品の設定に使用するコンピューター以外は、起動しないでください。

IPアドレスの競合など、不測の事態を招くおそれがあります。

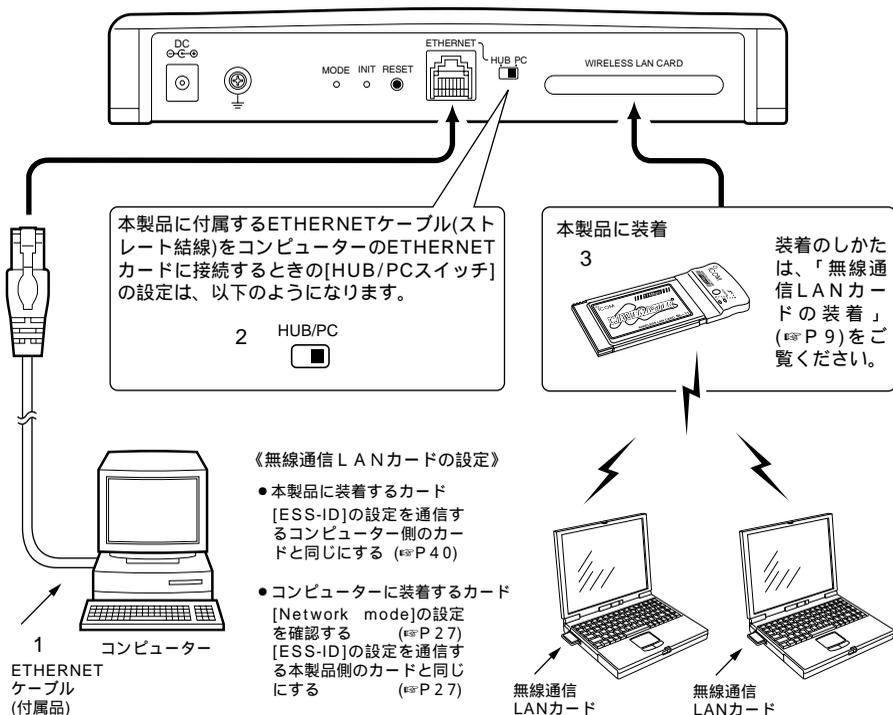
弊社製無線通信LANカードは、Macintoshに対応していません。

弊社指定以外の無線通信LANカードとの通信は、できません。

ETHERNETケーブルの抜き差しは、コネクタ部分を持って行ってください。

4 接続のしかた

4-1 コンピューターへの接続



すべての弊社製無線通信LANカードがご使用になれます。 (2001年5月現在)

本製品に装着する無線通信カードと異なる弊社製品をご使用になるときは、「無線通信LANカード対応表」(※P 76)を参考にしてください。

SL-100(FHSS方式)を本製品にご使用になる場合は、SL-100以外の弊社製無線通信LANカード(DSSS方式)を装着するコンピューターとは通信できませんので、ご注意ください。

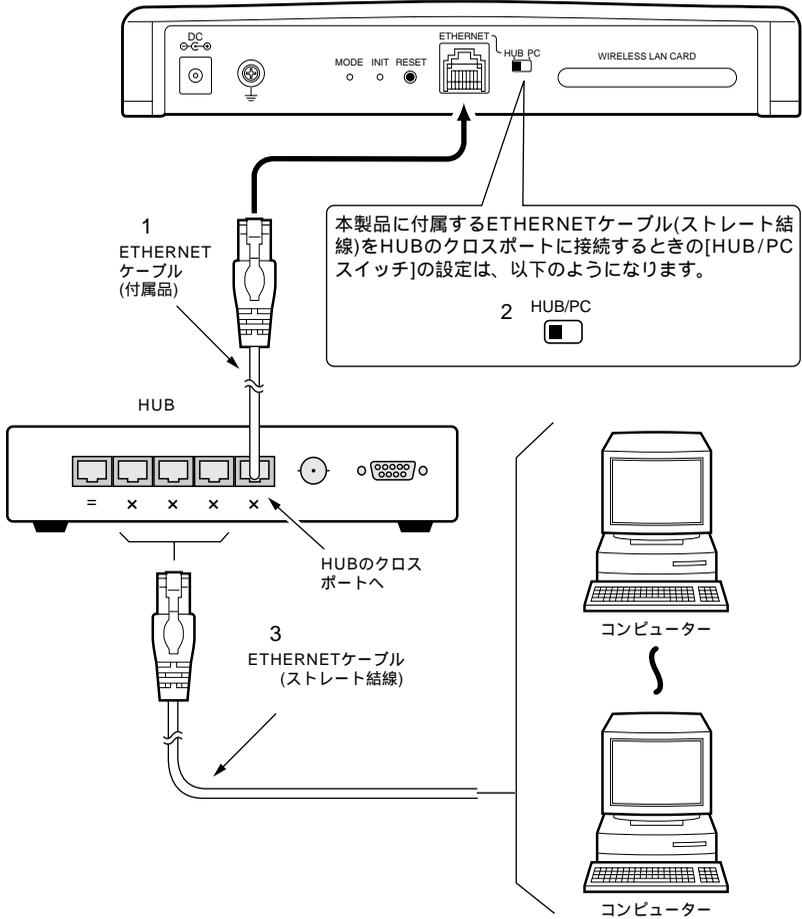
1. 付属品のETHERNETケーブルは、ストレート結線です。

2. [ETHERNET]ポートの[HUB/PC]スイッチを切り替えるときは、電源を切った状態で行ってください。

市販クロス結線のETHERNETケーブルを使用して、コンピューターのETHERNETカードに接続するときは、「HUB」側に切り替えて使用してください。

3. 弊社製無線通信LANカードは、Macintoshに対応していません。

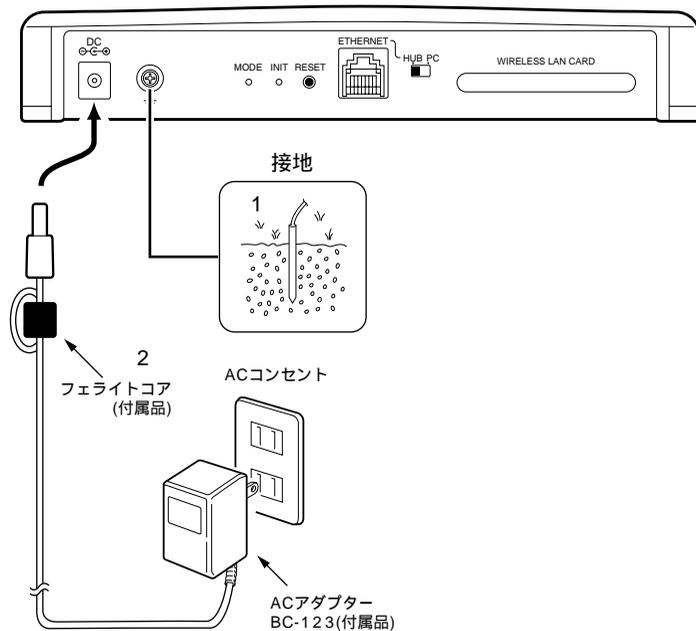
4-2 HUBへの接続



1. 付属品のETHERNETケーブルは、ストレート結線です。
2. [ETHERNET]ポートの[HUB/PC]スイッチを切り替えるときは、電源を切った状態で行ってください。
クロス結線のETHERNETケーブルを使用して、HUBのクロスポートに接続するときは、「PC」側に切り替えて使用してください。
3. HUBのクロスポートとコンピュータを接続するETHERNETケーブルは、ストレートケーブルを使用します。

4 接続のしかた

4-3 そのほかの接続



- 1.アース端子への接続は、市販のアース線をご用意ください。
- 2.ACアダプターを接続する前に、必ずフェライトコア(※P8)を装着してください。

5-1 コンピューターをEthernetでつなぐには

Ethernetケーブルを[Ethernet]ポートに接続してコンピューターと本製品をつなぐ場合の設定のしかたを説明します。

ステップ1

Ethernetカードをコンピューターに装着する

ステップ2

TCP/IPを設定する

16

ステップ3

WWWブラウザを用意する

21

Ethernetカードを用意する

ご使用のコンピューターに[Ethernet]ポートがあることを確認してください。

[Ethernet]ポートがないコンピューターの場合は、Ethernetカードを取り付ける必要があります。

コンピューターやEthernetカードに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。

また、本製品とコンピューターの接続は、無線LANを使って行うこともできます。

TCP/IPプロトコルを使えるようにする

本製品と通信を行うコンピューターすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。

ドライバーのインストールは、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書を参考に行ってください。

【Windows Meの場合】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

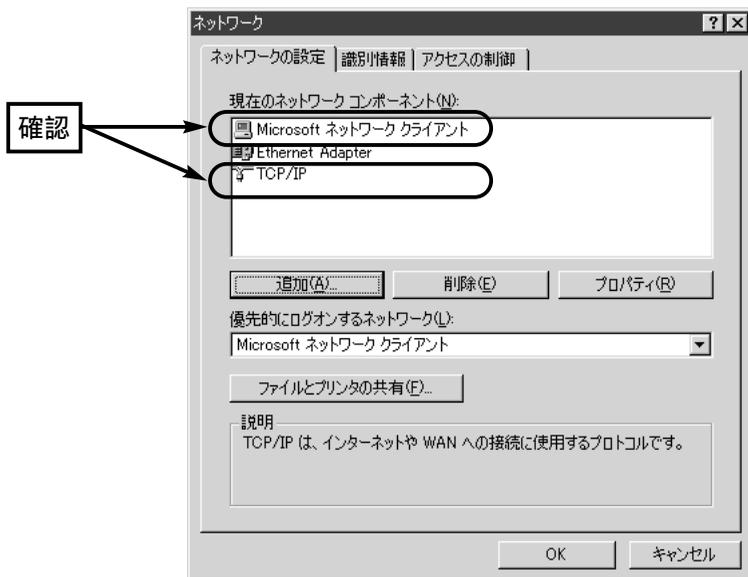
表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書をご覧ください。

「ネットワーク」画面の中に、複数のネットワークアダプターが一緒に組み込まれている場合、下記の画面で本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->ご使用のEthernetカードの名称」で表示されますので、これを確認してください。

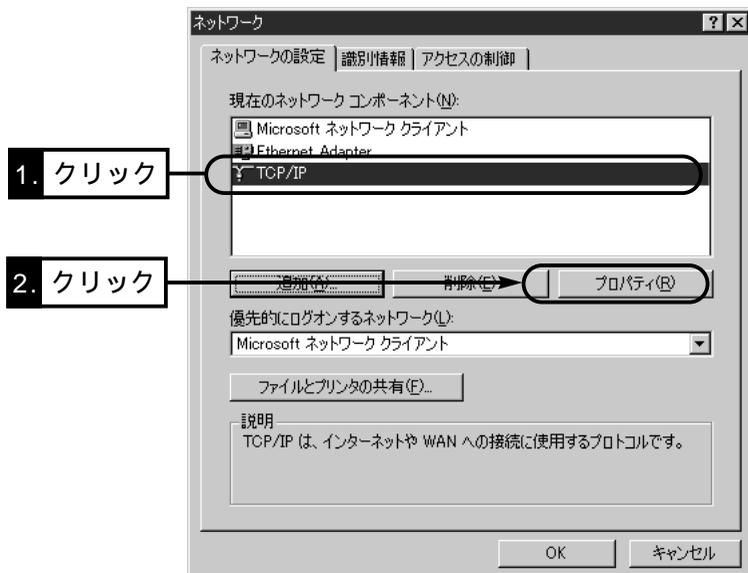
5 コンピューターの設定

5-1 コンピューターをEthernetでつなぐには

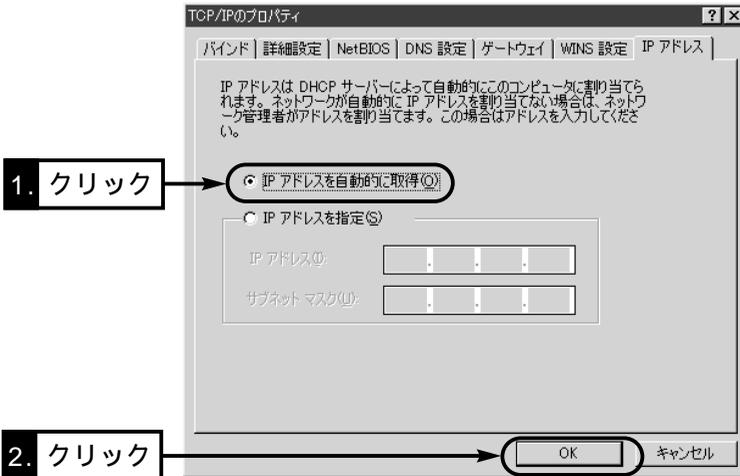
TCP/IPプロトコルを使えるようにする【Windows Meの場合】(手順2.つづき)



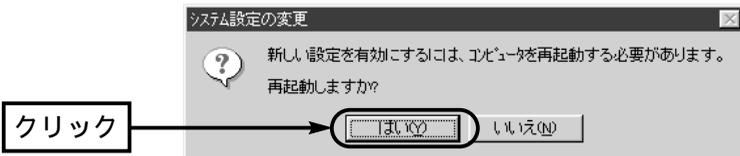
3. 「TCP/IP」 プロパティ (P) の順番にクリックします。



4. [IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてチェックマークを入れてから、OK をクリックします。



- 5.再起動を促す画面が表示されたら、 はい(Y) をクリックします。
再起動後、設定された内容が有効になります。

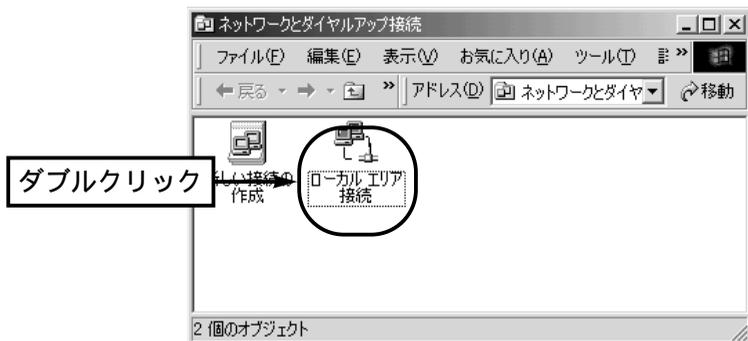


5 コンピューターの設定

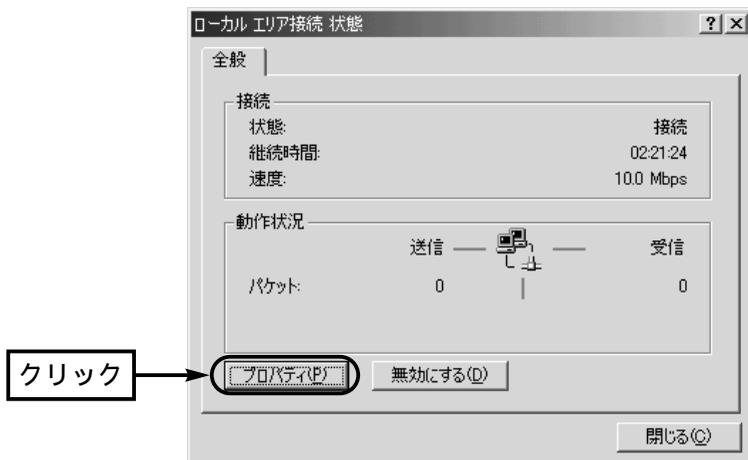
5-1 コンピューターをEthernetでつなぐには
TCP/IPプロトコルを使えるようにする(つづき)

【Windows 2000の場合】

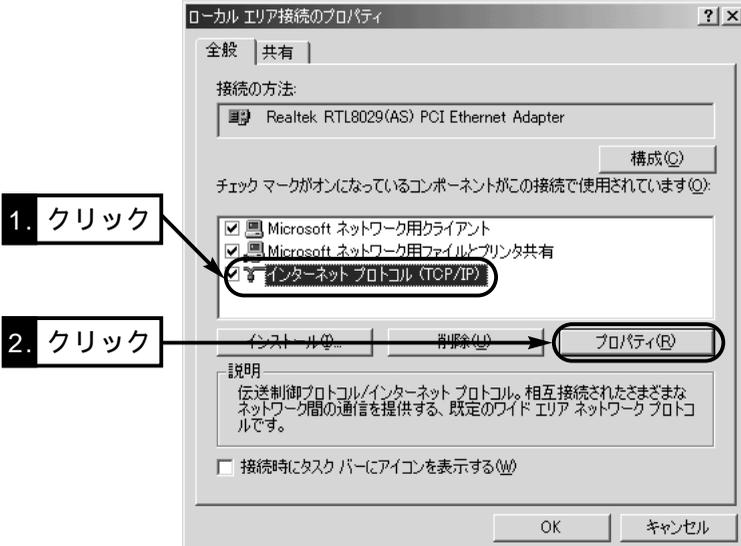
- 1.設定に使用するコンピューターを起動します。
 - Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。
- 2.Administrator権限でログオンします。
- 3.コンピューターが起動したら、スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] 本製品を接続するEthernetカードの名称が表示された[ローカルエリア接続]アイコンの順番にマウスを操作します。



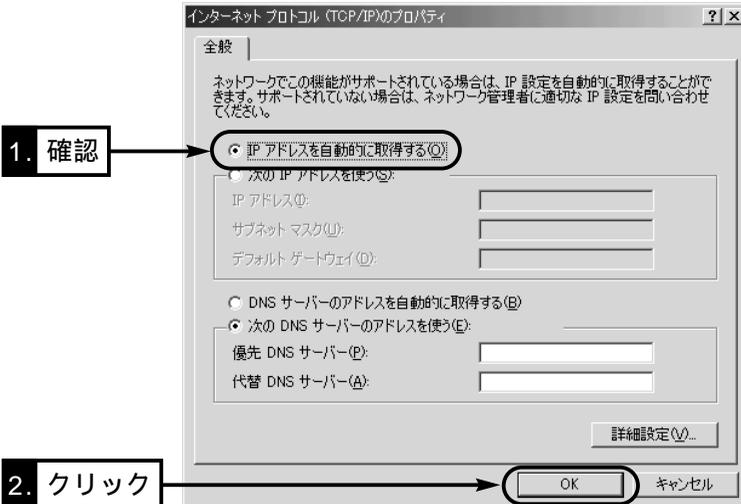
4. プロパティ(P) をクリックします。



5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



6.[IPアドレスを自動的に取得する(O)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、OK をクリックすると、設定された内容が有効になります。



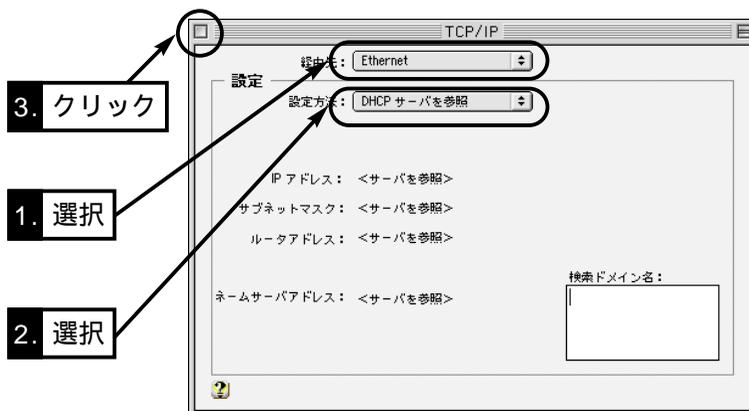
5 コンピューターの設定

5-1 コンピューターをEthernetでつなぐには

TCP/IPプロトコルを使えるようにする

【Mac OSの場合】

- 1.設定に使うコンピューターを起動します。
- 2.コンピューターが起動したら、[アップルメニュー] [コントロールパネル] [TCP/IP]の順番にマウスを操作します。
- 3.[経由先]を「Ethernet」、[設定方法]を「DHCPサーバを参照」に設定します。
- 4.タイトルバー上のクローズボックスをクリックします。
 - 画面が閉じて、設定画面が保存されます。



【ご参考】

ネットワークの設定を変更すると、設定以前の内容は消去されます。

【おことわり】

上記の手順は、MacOS J1-8.6で操作する場合です。

ほかのバージョンのMacOSでは、操作手順や画面が若干異なる場合がありますので、お使いのMacOSのヘルプ等で、ご確認ください。

WWWブラウザを用意する

本製品の設定は、WWWブラウザを使って行います。

WWWブラウザとして、Microsoft Internet Explorer4.0以降、またはNetscape Navigator4.0以降が必要です。

すでにWWWブラウザをお使いの場合は、ご使用のバージョンを確認してください。

5-2 コンピューターを無線LANでつなぐには

コンピューターを本製品に無線LANでつなぐ場合の設定のしかたを説明します。

対応OSは、Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000です。

ステップ1	無線LANカードをコンピューターに装着する	
ステップ2	TCP/IPを設定する	22
ステップ3	無線LANカードを設定する	27
ステップ4	WWWブラウザを用意する	28

無線LANカードを用意する

ご使用のコンピューターに対応する無線LANカードが装着できることを確認してください。

PCMCIAスロットがないコンピューターの場合は、無線LANカード用アダプター(弊社製)を取り付ける必要があります。

無線LANカード用アダプターに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。また、本製品とコンピューターの接続は、Ethernetを使って行うこともできます。

弊社製Wireless LAN UNIT(SU-11)をコンピューターの[USB]ポートにつないでご使用いただくと、本製品と無線LANによる通信が行えます。

TCP/IPプロトコルを使えるようにする

本製品と通信を行うコンピューターすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。

ドライバーのインストールは、ご使用の無線LANカードの取扱説明書を参考に行ってください。

【Windows Meの場合】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

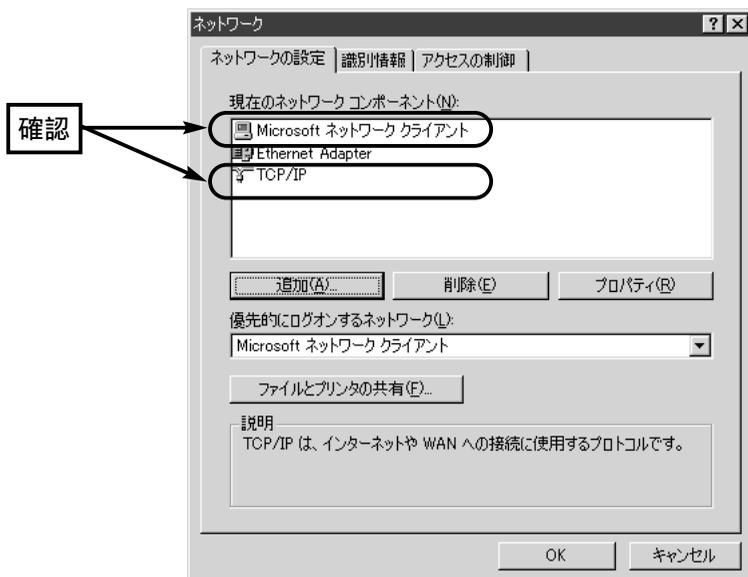
表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用の無線LANカードの取扱説明書をご覧ください。

「ネットワーク」画面の中に、複数のネットワークアダプターと一緒に組み込まれている場合、下記の画面で本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->ご使用の無線LANカードの名称」で表示されますので、これを確認してください。

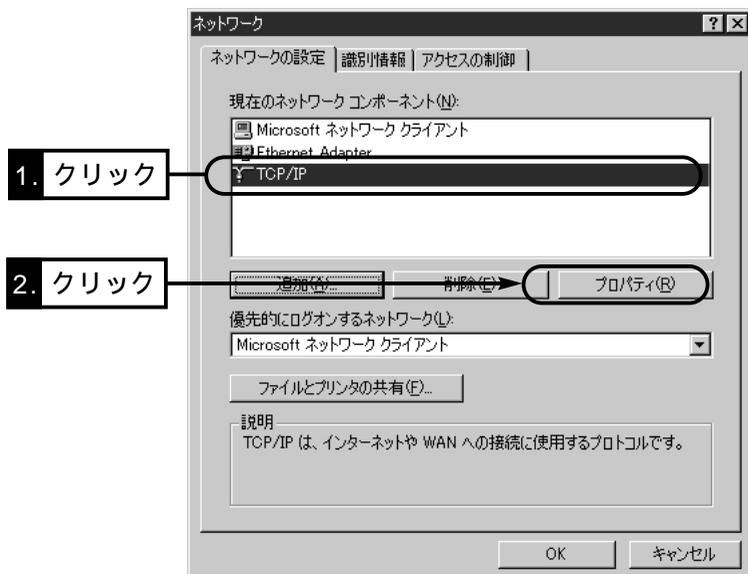
5 コンピューターの設定

5-2 コンピューターを無線LANでつなぐには

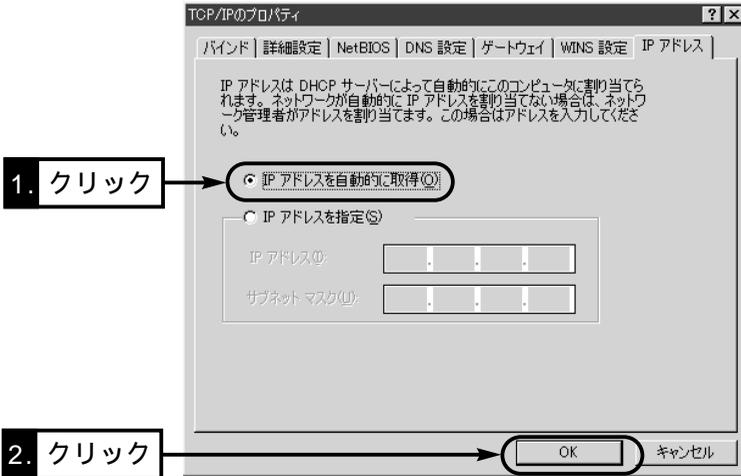
TCP/IPプロトコルを使えるようにする【Windows Meの場合】(手順2.つづき)



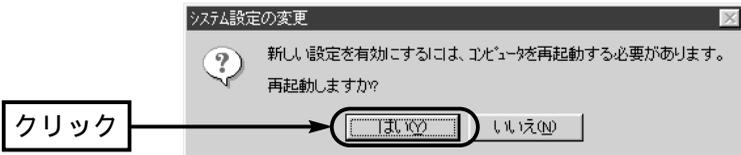
3. 「TCP/IP」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



4. [IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてチェックマークを入れてから、OK をクリックします。



5.再起動を促す画面が表示されたら、 はい(Y) をクリックします。
再起動後、設定された内容が有効になります。

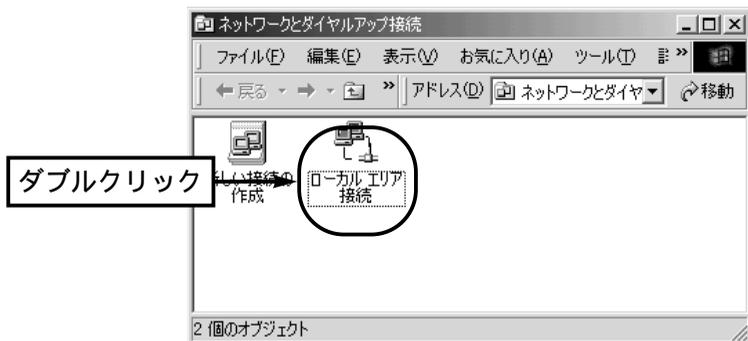


5 コンピューターの設定

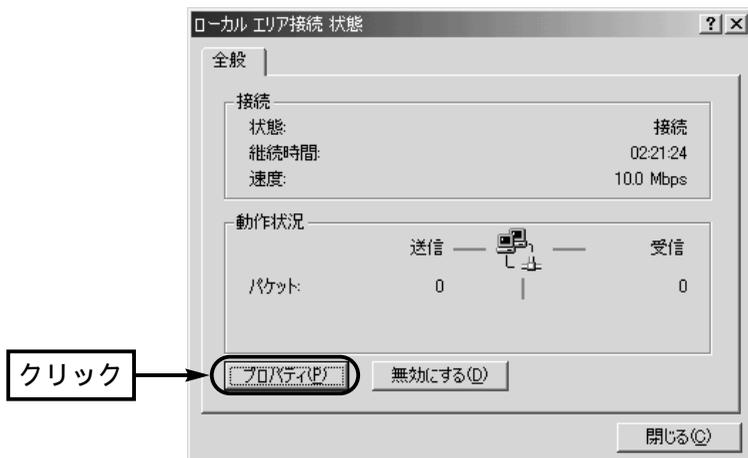
5-2 コンピューターを無線LANでつなぐには
TCP/IPプロトコルを使えるようにする(つづき)

【Windows 2000の場合】

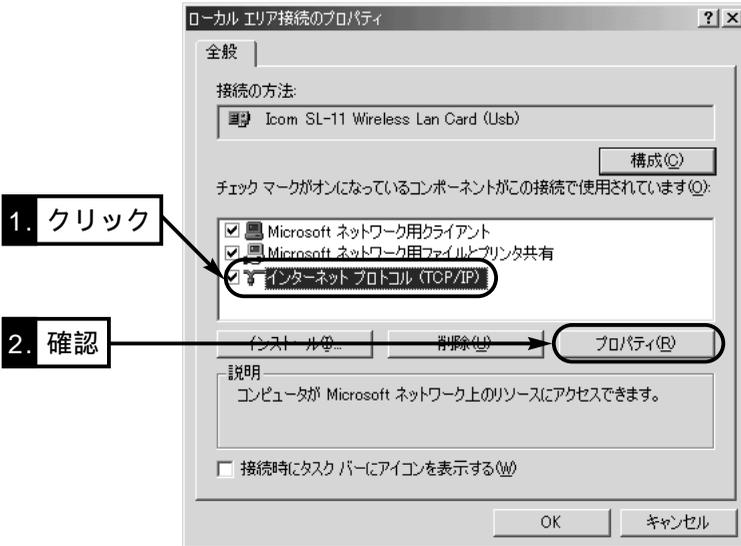
1. 設定に使用するコンピューターを起動します。
 - Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。
2. Administrator権限でログオンします。
3. コンピューターが起動したら、スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] 本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンの順番にマウスを操作します。



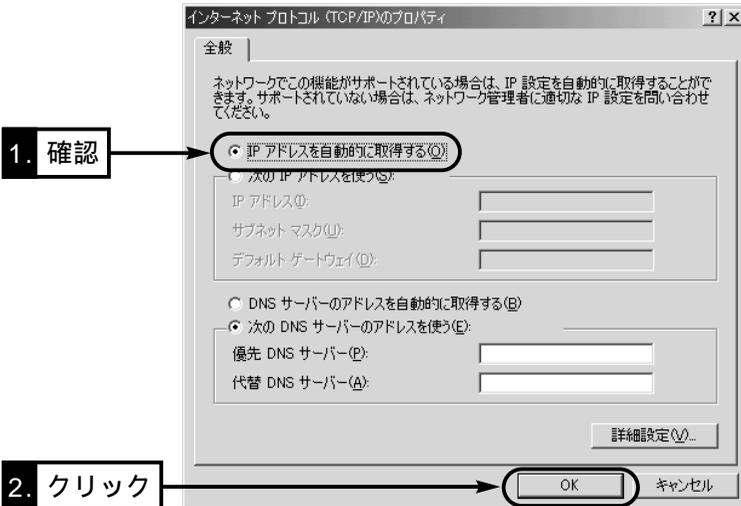
4. 本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンをダブルクリックします。



- 5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



- 6.[IPアドレスを自動的に取得する(O)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、OK をクリックすると、設定された内容が有効になります。



5 コンピューターの設定

5-2 コンピューターを無線LANでつなぐには(つづき)

無線LANカードを設定する

無線LANで接続するコンピューター(PC/AT互換機)は、次に示す項目の設定値を本製品と同じにする必要があります。ここでは、本製品の出荷時の設定値に合わせてコンピューター側の設定値を変更することを前提として説明します。

コンピューター側の設定値を変更する操作は、ご使用の無線LANカードの取扱説明書をご覧ください。

[Network Mode]

無線アクセスポイントという中継装置(本製品に内蔵)と通信を行います。

コンピューター側を「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードに変更しておきます。

「Adhoc(アドホック)」モードに設定していると、本製品と通信できません。

本製品側では、この項目についての設定は必要ありません。

[ESS ID]

同じ名前を設定したコンピューターが無線ネットワーク上で同じワークグループとして識別されます。コンピューター側の設定を「LG」(半角大文字)に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「LG」(半角大文字)です。

[通信チャンネル]

「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードで通信を行うときは、設定しても無効です。本製品側で設定する通信チャンネルにしたがって無線通信を行います。

[WEP機能]

無線LANで通信を行うとき、通信するデータの暗号化を行います。コンピューター側のWEPセキュリティを「無効」に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「WEPキーを使用しない」です。

【△注意】

- Macintoshへの無線接続には、対応していません。
- 本製品に対応する無線LANカードをご使用ください。対応しないカードとは通信できません。
- 本製品とコンピューターに装着された無線LANカードの設定を両方とも同じにしてください。設定が異なると、無線LANによる通信が行えません。
- 本製品に設定した値を正確にメモして、必ず同じ値を無線で通信するすべての機器に設定してください。
- 本製品に無線LANで接続するコンピューターから、本製品の「通信チャンネル」、「ESS ID」などを変更している途中は、一時的に無線で接続ができない状態になります。すべての機器の設定内容が同じになれば、接続できる状態になります。
- WEP機能を使って本製品と無線通信するには、弊社製の無線LANカードが必要です。
- 無線通信中に動作が不安定になる場合は、本製品やコンピューターの設置場所、向きを変えてみてください。
- 本製品の無線LANに多くのコンピューターが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。
同時に使える無線端末の数は、最大256台までですが10台以下とすることを勧めます。
- 無線通信LANカードSL-100では、[Network Mode]を[Wireless station type]、[ESS ID]を[Net Key]と表記しています。

WWWブラウザを用意する

本製品の設定は、WWWブラウザを使って行います。

WWWブラウザとして、Microsoft Internet Explorer4.0以降、またはNetscape Navigator4.0以降が必要です。

すでにWWWブラウザをお使いの場合は、ご使用のバージョンを確認してください。

5-3 設定時のアドバイス

6章(☞P 29)で使うコンピューターの接続は、この章で説明する設定を終えたあと、コンピューターを一旦終了(シャットダウン)してから行ってください。

6章を終えてから、稼働中のネットワークへ本製品を接続してください。

TCP/IPでネットワークを構築するときは、接続するコンピューターにIPアドレスの設定が必要です。 (☞P 16)

Windowsは起動時に、本製品からローカルIPアドレスを取得します。

Mac OSは通信(WWWアクセスやメールアクセスなど)を開始するごとに、本製品からローカルIPアドレスを取得します。

この時、本製品の電源を入れて、[DHCPサーバ機能を使用]が「する」に設定されていることを、49ページの画面を参考に確認してください。

コンピューターに、ローカルIPアドレスを割り当てようとしたとき、他のコンピューター(非DHCPクライアントで、手入力でローカルIPアドレスが設定されている)が、そのローカルIPアドレスがすでに使用されている場合、本製品は、そのローカルIPアドレスの存在を検出しません。

本製品が自動で割り当てできるIPアドレスの個数は、「ルーティングモード」(☞P 48)を使用しない場合、無線LANと有線LAN合わせて5～128個となります。「ルーティングモード」を使用する場合、無線LANと有線LANそれぞれに5～128個まで割り当て可能です。

割り当て可能な個数は、工場出荷時、それぞれ30個に設定されています。(☞P 50)同一ネットワーク上に接続するクライアント(ワイヤレス接続のクライアントも含む)のIPアドレスと、本製品がコンピューターに自動で割り当て可能なローカルIPアドレスの範囲が重ならないように注意してください。

6-1 設定の前に

ご購入後、はじめて本製品を起動するときや、全設定内容を初期化したときは、稼働中のネットワークに接続されたコンピューターは、本製品から外してください。設定に使うコンピューターだけを本製品に有線または無線を使って接続してください。

工場出荷時の状態で、本製品を稼働中のネットワークに接続すると、IPアドレスの競合など、不測の事態を招くおそれがあります。

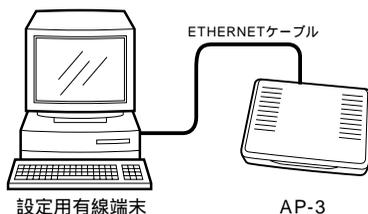
【おことわり】

本製品に有線で接続できる環境をお持ちの場合、本製品の設定は、なるべく有線端末から行うようにしてください。

6-2 有線端末から設定するには

A 接続のしかた

本製品に有線端末で接続する場合は、「コンピューターへの接続」(4-1章 P 13)と併せてご覧ください。



B 起動のしかた

- 有線端末の接続が終われば、付属のACアダプターを、本製品のDCジャックとACコンセントに接続すると、電源が入ります。(4-3章 P 15)
 - 前面パネルのランプが全灯後、[POWER]ランプだけが点灯します。
- 本製品の設定に使う有線端末だけを起動します。
 - 正常に接続すると前面パネルの[LAN]ランプ(P 5)が点灯します。
[LAN]ランプが点灯しないときは、[HUB/PC]スイッチを「PC」側に切り替えてください。(P 5、13)

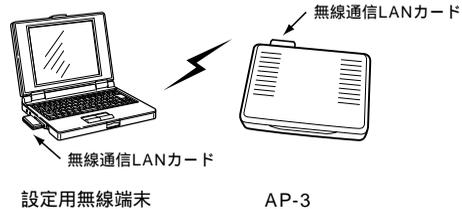
【ご注意】

HUBを介して接続するような場合、設定に使うコンピューター以外は、本製品の設定が終わるまで起動しないでください。

6-3 無線端末から設定するには

A 接続のしかた

本製品に無線端末で接続する場合は、「コンピューターへの接続」(4-1章 P 14)と併せてご覧ください。



B 無線端末の設定

設定に使うコンピューターを上図のようにワイヤレス接続するには、「コンピューターを無線LANでつなぐには」(5-2章)の設定が必要です。

弊社製無線通信LANカードに付属する取扱説明書も併せてご覧ください。

C 起動のしかた

【ご注意】

HUBを介して接続するような場合、設定に使うコンピューター以外は、本製品の設定が終わるまで起動しないでください。

1. 「無線端末の設定」が終われば、無線通信LANカードを本製品のPCMCIAスロットに装着します。

2. 付属のACアダプターを、本製品のDCジャックとACコンセントに接続(4-3章 P 15)すると、電源が入ります。

- 前面パネルのランプが全灯後、[POWER]ランプだけが点灯します。

3. 本製品の設定に使う無線端末だけを起動します。

- 正常に接続すると前面パネルの **wireless LAN** ランプ (P 5) が点灯します。

コンピューターに装着された無線通信LANカードの緑色のランプは、点滅を繰り返します。また、赤色のランプは、本製品にアクセスすると点滅します。前面パネルの **wireless LAN** ランプが点灯しないときは、無線端末に設定された[Network Mode]と[ESS ID]をもう一度確認するか、コンピューターを再起動してみてください。

コンピューターに装着された無線通信ランプが点灯しなかったり、上記で説明した状態でないときは、コンピューター側の無線通信LANカードにインストールしたドライバーまたは、設定を確認してください。

6 AP-3の設定

6-4 割り当てられたIPアドレスを確認するには

DHCPサーバ機能によってコンピューターに自動で割り当てられたIPアドレスを確認する方法について、次のOSを例に説明します。

Windows Meの場合

Windowsフォルダーにある「winipcfg.exe」というアプリケーションを使用します。

【起動のしかた】

1. スタート ボタンをクリックし、[ファイル名を指定して実行(R)]にカーソルを合わせてクリックします。
2. コマンドラインボックスに「 winipcfg 」と半角入力して、[ENTER]キーを押します。
 - 次の[IP設定]画面を表示すると、起動が完了です。



3. テキストボックスの をクリックして、お使いのETHERNETカード名を指定してから、設定値の確認や解放または再取得の操作をします。

アダプタアドレス : ETHERNETカードの
MACアドレス
IPアドレス : コンピューターのIPアド
レス
サブネットマスク : コンピューターのサブネ
ットマスク

【自動割り当てに失敗したら？】

コンピューターのIPアドレスのネットワーク部が、本製品のIPアドレスのネットワーク部(192.168.0.)と異なるときは、IPアドレスの自動割り当てに失敗している可能性がありますので、ご使用のEthernetまたは無線LANカードのTCP/IPプロトコルについての設定およびケーブルの接続を確認してから、コンピューターを再起動してみてください。
再起動したら、もう一度、上記の手順でIPアドレスを確認してください。

Windows 2000(Professional)の場合

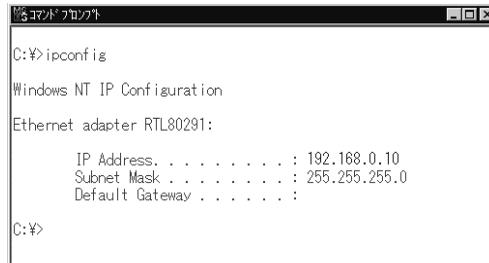
コマンドプロンプト画面から「ipconfig」を実行します。

【確認のしかた】

- 1.マウスを スタート [プログラム(P)] [アクセサリ] [コマンドプロンプト]の順番に操作します。
- 2.ipconfigとコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。

コマンドラインのオプションについて詳しくは、「ipconfig/?」を実行してご確認ください。

- 3.次に表示された画面に、コンピューターに割り当てられてIPアドレスが表示されます。



```
コマンド プロンプト
C:\>ipconfig

Windows NT IP Configuration

Ethernet adapter RTL80291:

    IP Address. . . . . : 192.168.0.10
    Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . . :

C:\>
```

6 AP-3の設定

6-4 割り当てられたIPアドレスを確認するには(つづき)

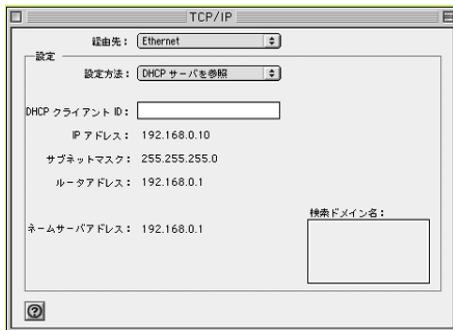
Mac OSの場合

TCP/IP設定時の画面(※P 21)で、確認ができます。

本製品からIPアドレスが割り当てられると、次のように表示されます。

【ご参考】

コンピューターの起動後、実際に通信(WWWアクセスまたはメールアクセスなど)を行うまで、DHCPサーバからネットワーク設定値の取得をしないので、一度通信を行ってから確認してください。



【Macアドレスを確認するには】

1. [アップルメニュー] [コントロールパネル] [AppleTalk]の順番にマウスを操作すると、次のどちらかの画面を表示します。
メニューバーの[編集]メニュー [利用者モード]で表示する画面から「詳しい情報も指定」を選ぶと、右の画面を表示します。



2. 上記画面で「経路先」を[ETHERNET]に選びます。
3. 上記右の画面で 情報 ボタンをクリックするか、上記左の画面でメニューバーの[ファイル]メニューから「情報を見る」を選ぶと、次の画面を表示します。



MACアドレスの表示

6-5 設定画面にアクセスするには

6-2章または6-3章の説明で、設定用端末が本製品に正しく接続できていれば、WWWブラウザから本製品の設定画面にアクセスできることを確認します。

設定用端末にWWWブラウザがインストールされていないときは、別途ご用意ください。

1. 設定用端末から、WWWブラウザを起動します。
2. URLとして、AP-3のIPアドレスを指定します。
 - `http://192.168.0.1/` [工場出荷時の設定]
3. アクセスに成功すると、始めに[無線LAN設定]画面を表示します。

画面を表示しないときは、設定用端末の設定や接続状態、IPアドレスの取得状況(※P 31)を確認するなど、コンピュータを再起動して、はじめからやり直してください。

【無線LAN設定画面】



① 設定画面選択エリア...

AP-3の設定画面の全タイトルを表示します。

目的の画面表示に切り替えるときは、カーソルを目的のタイトルの上に移動して、クリックします。

② 設定画面表示エリア...

設定画面選択エリアで選択されたタイトルの画面を表示します。

③ 登録 ボタン

設定画面表示エリアに表示された画面の内容を変更したとき、その内容を本製品に登録します。

6 AP-3の設定

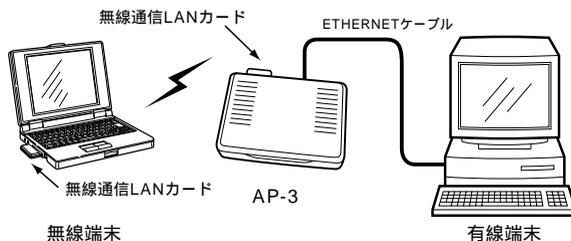
6-5 設定画面にアクセスするには(つづき)

- ④ 取消 ボタン 設定画面表示エリアに表示された画面の内容を変更したとき、変更前の状態に戻します。なお、登録 ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ⑤ 登録して再起動 ボタン..... 変更内容を本製品に登録して、本製品を再起動します。登録後、再起動が必要な場合は、再起動を促すメッセージをこのボタンの横に表示しますので、必ずこのボタンをクリックしてください。
- ⑥ バージョン情報..... ファームウェアのバージョン(☞P 63)を表示します。本書の画面は、Ver.1.5を使って説明しています。

6-6 動作させてみるには

次の接続形態を参考に、本製品へのワイヤレス接続が行えることを確認します。

本製品の設定は、工場出荷時の状態とします。



1. 無線通信LANカードを本製品に装着します。(☞P 9)
2. 付属のACアダプターを本製品に接続します。
 - 前面パネルのランプが全灯後、[POWER]ランプだけが点灯します。
3. 本製品の[ETHERNET]ポートに接続された有線端末を起動します。(6-2章☞P 29)
 - 前面パネルの[LAN]ランプが点灯します。
4. 有線端末から本製品の設定画面にアクセスできることを確認します。(6-5章☞P 34)
5. 試験用に新規フォルダーを作成して、そのフォルダーの共有設定を有効にしておきます。

.....次ページへつづく

6-6 動作させてみるには(つづき)

6. 無線通信LANカードが装着された無線端末を起動します。 (6-3章 P 30)
 - 正常に接続すると前面パネルの **wireless LAN** ランプ (P 5) が点灯します。
7. 無線端末から本製品の設定画面にアクセスできることを確認します。 (6-5章 P 34)
8. 試験用に新規フォルダーを作成して、そのフォルダーの共有設定を有効にしておきます。
9. 本製品に有線および無線で接続された双方のコンピューターから、[ネットワークコンピュータ]アイコンをダブルクリックして、お互いのコンピューターアイコンを表示すれば、正常に動作しています。
Windows 2000の場合、[ネットワークコンピュータ]は[マイネットワーク]と表記されています。
10. 表示された相手のコンピューターアイコンをダブルクリックすると、試験用に作成したフォルダーが表示されます。
11. 動作の確認ができれば、8章を参考にして、目的のネットワークに合わせて設定を行ったあと、稼働中のネットワークに接続します。

本製品が無線ネットワークを構築するための拡張機能として、次の2通りがあります。

無線アクセスポイント機能(7-1章 P 37)

無線通信端末とのローミング機能(7-2章 P 38)

ご使用になる無線通信LANカードによって多少の違いはありますが、11Mbpsの無線伝送速度で通信する場合、無線伝送距離は、屋内で約30m、屋外で約70m(見通し)です。

【おことわり】

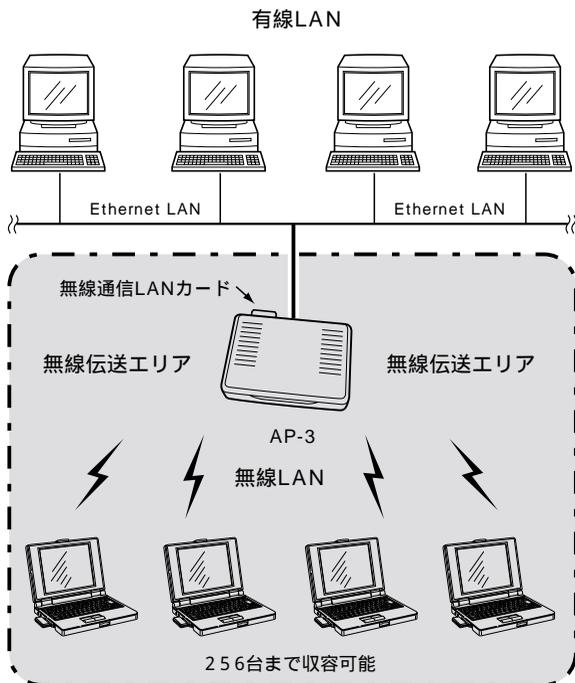
Macintoshは、無線端末としてご利用になれません。

7-1 無線アクセスポイント機能

無線アクセスポイント機能とは、無線端末どうし、またはETHERNETで本製品に接続された端末と無線端末が、本製品を介してワイヤレス接続するLANの接続形態です。

概念図

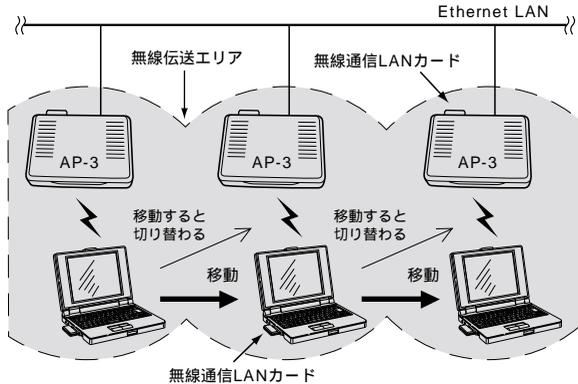
【△注意】
本製品の無線LANに多くのコンピューターが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。
同時に使える無線端末の数は、最大256台までですが10台以下とすることをお勧めします。



7-2 ローミング機能

本製品を2台以上用意して、それぞれを有線LANに接続することにより、無線端末を移動させても、自動的に電波の状況のよいアクセスポイント(本製品)に切り替えることによって、無線伝送エリアが広がり、工場や倉庫のように広い場所で移動しながら無線LANが利用できるようになります。

概念図



【ご参考】

本製品どうしの接続は、市販のETHERNETケーブルを使ってHUBを介してカスケード接続してください。

設定時のご注意

ローミングエリアを含め、無線LANの端末は、有線LANの端末と同じネットワークグループとして動作します。したがって、ローミング機能の使用時は、ルーティングモード(☞P 48)を使用できません。

上図のような場合、本製品のどれか1台だけDHCPサーバー機能の設定を有効にしておくと、IPアドレスの重複を回避できます。

ローミングエリア内で通信を行うすべての無線端末は、[ESS ID]、[WEP]の設定をすべて同じにしてください。設定が異なると通信できません。

.....次ページにつづく

7 AP-3の無線機能

7-2 ローミング機能

設定時のご注意(つづき)

電波干渉を避けるため、「チャンネル」を変更するとき
は、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから
4つ以上飛ばして設定してください。

それ以下のときは、図(無線チャンネルの帯域)に示す
ように帯域の1部が重複するため混信する可能性があ
ります。

例えば、お互いの設定が、1-6-11チャンネルに設定
すると混信しません。

無線チャンネルの帯域



8-1 [無線LAN設定]画面

無線LAN設定

① SL-1100詳細設定

ボタン.....

弊社製無線通信LANカードを本製品に装着してご使用になる場合、その詳細設定を行う画面を表示します。

ご使用になる弊社製無線通信LANカードが11Mbps対応であれば、この画面で設定できます。

② ESS ID

本製品に接続する無線LANへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。

同じ[ESS ID]が設定された本製品どうし、または本製品と無線端末のあいだでワイヤレス接続できます。

変更内容を有効にするには、本製品の再起動が必要です。大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。(初期値は半角:LG)

入力する文字は、すべて「*」で表示します。

(表示例: **)

③ ESS IDの確認入力 ...

入力間違いを防ぐため、[ESS ID]を再入力します。

大文字/小文字の区別に注意してください。

(表示例: **)

8 各種設定画面について

8-1 [無線LAN設定]画面(つづき)

SL-1100詳細設定

【ご参考に】

右記の画面で「チャンネル」の設定値を変更したときだけ再起動が必要です。

① チャンネル.....

本製品のワイヤレス接続に使用する無線通信用チャンネルを設定します。(初期値：14)

弊社製無線通信LANカードを装着して通信する無線端末は、本製品のチャンネルを自動的に検知して通信します。

② Rts/Ctsスレッシュホール.....

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(初期値：無し)

Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールを設定すると、隠れ端末(IEEE P 44)の影響で起こる通信速度の低下を防止できます。

③ セキュリティレベル...

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、データを暗号化する割合を設定します。

(初期値：なし)

暗号化方式には、WEP(Wired Equivalent Privacy)を使用しています。

ここで設定したレベル(低・中・高)に合わせて、[セキュリティレベルのカスタム設定]の項目(⑤番～⑧番)を自動設定します。

「カスタム」を選択すると、[セキュリティレベル カスタム設定]の項目(以下、⑤番～⑧番)を任意に設定できます。

通信対象となる相手間で、同じセキュリティレベルを設定することをおすすめします。

【ご参考】

[セキュリティレベル]と[カスタム設定]項目の関係については、45ページの表をご覧ください。

- ④ キージェネレータ..... 暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。何も入力しないときは、その端末同士で通信できます。
入力する文字は、すべて「*」で表示します。
(表示例：**)
入力された文字列に基づいて、[セキュリティレベル カスタム設定]の項目(前ページ、⑨番)に自動生成します。
通信対象となる相手間で、同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号 30文字以内)を設定します。
通信対象となる相手間で、設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できません。
[セキュリティレベル カスタム設定]から設定値(前ページ、⑨番)を設定するときは、ここには何も表示されません。
- ⑤ 受信パケットの復号... 受信したパケットの復号化処理に関する設定です。
「する」「しない」「する(暗号化されていないパケットを破棄する)」の中から選択します。(初期値：しない)
[③セキュリティレベル]を「カスタム」に選択するとき設定します。
- ⑥ 送信パケットの暗号化 送信するパケットの暗号化処理に関する設定です。
「する」「しない」の中から選択します。(初期値：しない)
[③セキュリティレベル]を「カスタム」に選択するとき設定します。
- ⑦ WEPファクタ セキュリティレベルを設定する項目で、「0」を選択すると、一番セキュリティが高くなります。(初期値：0)
各値の暗号化レベルは、つぎのようになります。
「0」= 1パケットごとに内部暗号キーを変更する
「1」= 10パケットごとに内部暗号キーを変更する
「2」= 50パケットごとに内部暗号キーを変更する
「3」= 100パケットごとに内部暗号キーを変更する
[③セキュリティレベル]を「カスタム」に選択するとき設定された値が有効になります。

8 各種設定画面について

8-1 [無線LAN設定]画面

SL-1100詳細設定(つづき)

- ⑧ 暗号化ビット数..... 暗号化するビット数を設定します。(初期値：64ビット)
「64ビット」を選択すると、「キージェネレータ」のテキストボックス(☞P 42)に入力した文字列より生成されたキーの下位40ビット(16進数：10文字)を「WEPキー」のテキストボックスに表示します。また、10文字までこのテキストボックスに直接入力することもできます。
「128ビット」を選択すると、「WEPキー」のテキストボックスには、下位104ビットを表示します。また、26文字までこのテキストボックスに直接入力することもできます。

直接入力する場合、「キージェネレータ」のテキストボックスに文字列は、表示されません。

先頭の24ビットは、表示されません。

- ⑧ WEPキー 暗号化に使うキーを選択する項目です。(初期値：[1])
チェックマークを入れたテキストボックスに表示された16進数の英数字を暗号化に使用して、相手側では、キー番号の右にあるテキストボックスに同じ16進数の英数字が設定されているとき復号化(正しく受信)できます。
各テキストボックスには、通信の対象となる相手間で暗号化および復号化に使うキー(半角英数字)を16進数で直接入力してください。

なお、通信の対象となる相手間で[暗号化ビット数]の設定(☞P 43)が異なったり、暗号化および復号化に使うテキストボックスの内容が異なるときは通信できません。
各テキストボックスには、通信の対象となる相手間で同じ内容に設定されることをおすすめします。そのようにしておく、相手間でキー番号の設定が異なっても、そのテキストボックスの内容が同じなので通信できます。

[④キージェネレータ]のテキストボックスに何も入力しないときは、「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、[④キージェネレータ]のテキストボックスに文字列は、表示されません。)

[例：WEPキーが64ビット暗号化に設定されているとき](☞P 44 :WEPキーの設定例)

WEPキーの設定例

WEPキー	
1 -	76 C8 C0 F5 72
2 -	50 AC 7E 6D E4
3 -	28 29 B4 F7 C4
4 -	7E C9 76 90 12

双方向通信可能



WEPキー	
1 -	76 C8 C0 F5 72
2 -	50 AC 7E 6D E4
3 -	28 29 B4 F7 C4
4 -	7E C9 76 90 12

WEPキー	
1 -	76 C8 C0 F5 72
2 -	50 AC 7E 6D E4
3 -	28 29 B4 F7 C4
4 -	7E C9 76 90 12

双方向通信可能



WEPキー	
1 -	76 C8 C0 F5 72
2 -	50 AC 7E 6D E4
3 -	28 29 B4 F7 C4
4 -	7E C9 76 90 12

WEPキー	
1 -	76 C8 C0 F5 72
2 -	50 AC 7E 6D E4
3 -	28 29 B4 F7 C4
4 -	7E C9 76 90 12

通信不可能



WEPキー	
1 -	7E C9 76 90 12
2 -	50 AC 7E 6D E4
3 -	28 29 B4 F7 C4
4 -	76 C8 C0 F5 72

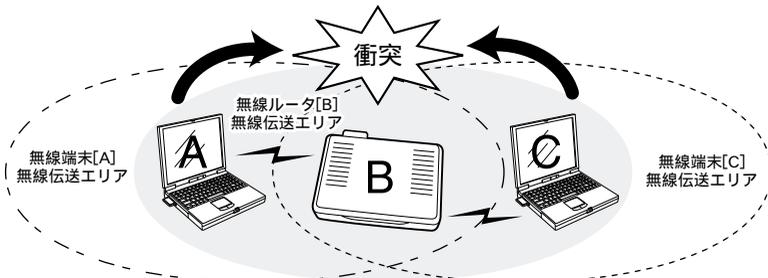
隠れ端末について

次の図のように、それぞれが本製品[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。

隠れ端末が存在すると、キャリアセンス(Carrier Sense)がそれらの無線端末に有効に機能しないため、本製品[B]で通信の衝突頻度が増加して、スループット(一定時間内に伝送される情報量)が低下します。

通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末に本製品[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。

これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、本製品[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



8 各種設定画面について

8-1 [無線LAN設定]画面

SL-1100詳細設定(つづき)

[セキュリティレベル]と[カスタム設定]項目の関係

		WEP設定			WEP ファクター	暗号化ビット数
		受信パケットを復号化する	暗号化されていないパケットを破棄する	送信パケットを暗号化する		
セキュリティレベル	無し	復号化しない	設定無効	暗号化しない	無効	無効
	低	復号化する	破棄しない	暗号化する	3	64ビット暗号化
	中	復号化する	破棄する	暗号化する	0	64ビット暗号化
	高	復号化する	破棄する	暗号化する	0	128ビット暗号化

セキュリティレベルの設定

セキュリティーレベルを設定している端末同士が通信可能なセキュリティーレベルは、以下の表のとおりです。

(: 通信可能 x : 通信不可能)

セキュリティーレベルが同じでも、通信対象となる相手間でキージェネレーター(※P 42)の文字列が異なるときは、通信できません。

セキュリティーレベル	無し	低	中	高
無し		x	x	x
低	x			x
中	x			x
高	x	x	x	

MACアドレスセキュリティ設定

MACアドレスセキュリティ設定				
MACアドレスセキュリティ	①	使用 <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動後に有効になります。	
本体無線部のMACアドレス	②	00-00-00-00-00-09		
登録の追加				
MACアドレス	③	<input type="text"/>	追加	
現在の登録				
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況	電波強度	
	00-00-00-00-00-30	通信中	200	追加

① MACアドレスセキュリティを使用.....

あらかじめ、画面の④欄に登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。

(初期値：しない)

変更内容を有効にするには、本製品の再起動が必要です。

② 本体無線部のMACアドレス.....

本製品に装着する無線通信LANカードが正しく認識されると、その無線通信LANカードに登録されたMACアドレスを表示します。

③ MACアドレス

この欄に対象となる無線LANカードのMACアドレスを入力して 追加 ボタンをクリックすると、④の[登録済みの端末]欄に登録されます。

MACアドレスセキュリティが有効なとき、[登録済みの端末]欄に表示されたMACアドレスをもつ無線通信LANカードとだけ通信できます。

最大256台分のMACアドレスが登録できます。

入力は、半角文字で12桁を入力します。

入力後は、追加 ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。

1 1-1 1-1 1-2 2-3 3-3 3、1 1 1 1 1 1 2 2 3 3 3 3

無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、6-4章(P31)をご覧ください。

8 各種設定画面について

8-1 [無線LAN設定]画面

MACアドレスセキュリティ設定(つづき)

- ④ 現在の登録.....
- 本製品と通信している無線端末の状況や登録済みの無線端末のMACアドレスを表示します。
- 登録されているMACアドレスは、削除 ボタンで登録削除できます。
- 受信中の端末欄に表示されている登録されていないMACアドレスは、追加 ボタンが表示されますので、それをクリックすると、MACアドレスが登録できます。
- [電波強度]欄に110～200を表示していれば、良好に通信できています。

8-2 [本体ネットワーク設定]画面

ルーティングモード設定

ルーティングモード設定	
ルーティングモードを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

ルーティングモードを使用

有線LANと無線LANの間でルーティング動作をするかしないかを選択します。 (初期値：しない)

変更内容を有効にするには、本製品の再起動が必要です。

「しない」を選択すると、有線LANと無線LANを区別することなく同一サブネット(ネットワーク部が同じ)として扱いますので、無線LANの設定についても[本体ネットワーク設定]画面の「有線LAN」側の設定が適用され、ローミング機能(P.38)が使用できます。

「する」を選択すると、有線LANと無線LAN間を異なるサブネット(ネットワーク部が異なる)として扱いますので、有線LANと無線LANを異なるネットワークとして構成できます。

本体IPアドレス設定

本体IPアドレス設定		
	有線LAN	無線LAN
IPアドレス ①	192.168.0.1	192.168.1.1
サブネットマ②	255.255.255.0	255.255.255.0
※無線側の設定はルーティングモード時のみ有効		

① IPアドレス

本製品の有線LANと無線LANのIPアドレスを設定します。

有線LAN側の初期値：192.168.0.1

無線LAN側の初期値：192.168.1.1

変更内容を有効にするには、本製品の再起動が必要です。

② サブネットマスク

本製品の有線LANと無線LANのサブネットマスクを設定します。

有線LAN側の初期値：255.255.255.0

無線LAN側の初期値：255.255.255.0

変更内容を有効にするには、本製品の再起動が必要です。

[ルーティングモード設定]を「しない」(初期値)に設定するときは、無線LAN側のIPアドレスとサブネットマスクは、有線LAN側の設定値が適用されます。

8 各種設定画面について

8-2 [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

DHCPサーバ設定

【ご参考に】

右記の画面で設定する項目は、すべて再起動が必要です。

DHCPサーバ設定		
DHCPサーバ機能を使① <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
	有線LAN	無線LAN
割り当て開始IPアドレス②	192.168.0.10	192.168.1.10
サブネットマスク ③	255.255.255.0	255.255.255.0
割り当て台数 ④	30 個	30 個
デフォルトゲートウェイ ⑤	192.168.0.1	192.168.1.1
プライマリDNSサーバ⑥	192.168.0.100	192.168.0.100
セカンダリDNSサーバ⑦		
プライマリWINSサーバ⑧		
セカンダリWINSサーバ⑨		
ドメイン名 ⑩		
リース期間 ⑪		3 日

※ 無線側の設定はルーティングモード時のみ有効

① DHCPサーバ機能

を使用

本製品をDHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。 (初期値：する)

本製品のDHCPサーバ機能を使用すると、DHCPサーバクライアントに対して、下記の情報などを自動的に設定することができます。

IPアドレス
サブネットマスク
デフォルトゲートウェイ
DNSサーバ
WINSサーバ
ドメイン名

② 割り当て開始IP

アドレス.....

本製品に有線およびワイヤレス接続するコンピューターへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。

有線LAN側の初期値：192.168.0.10

無線LAN側の初期値：192.168.1.10

③ サブネットマスク.....

割り当て開始アドレスのネットワークIPアドレスに対するサブネットマスクです。(初期値：255.255.255.0)
.....次ページへつづく

- ④ 割り当て個数..... 割り当て開始アドレスから連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数です。 (初期値：30)
設定できる個数は、5～128個です。
- ⑤ デフォルトゲートウェイ クライアントに通知するデフォルトゲートウェイを有線LANおよび無線LANについて設定します。
- ⑥ プライマリDNSサーバ プライマリDNSアドレスを無線LAN側と有線LAN側について設定します。
- ⑦ セカンダリDNSサーバ セカンダリDNSアドレスを無線LAN側と有線LAN側について設定します。
- ⑧ プライマリWINSサーバ..... プライマリWINSサーバアドレスを無線LAN側と有線LAN側について設定します。
- ⑨ セカンダリWINSサーバ..... セカンダリWINSサーバアドレスを無線LAN側と有線LAN側について設定します。
- ⑩ ドメイン名..... DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を無線LAN側と有線LAN側について設定します。
- ⑪ リース期間..... DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的にクライアントへ割り当てなおす期限を、無線LAN側と有線LAN側のそれぞれに日数で指定します。
(初期値：3)

8 各種設定画面について

8-2 [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

静的DHCPサーバ設定

【ご参考に】

右記の画面で設定する項目は、すべて再起動が必要です。

静的DHCPサーバ設定		
登録の追加		
MACアドレス	IPアドレス	有線 / 無線
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/> / <input type="button" value="追加"/>
※無線側の設定はルーティングモード時のみ有効		
現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	有線 / 無線

DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てするIPアドレスを、特定の無線端末および有線端末に固定するとき、その端末のMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。

MACアドレスは、半角文字で12桁を入力します。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。

1 1 - 1 1 - 1 1 - 2 2 - 3 3 - 3 3 3、1 1 1 1 1 1 1 2 2 3 3 3 3

この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録する端末のIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

入力後は、無線または有線の **追加** ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

8-3 [ルーティング設定]画面

RIP設定

RIP設定	
RIPを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する

RIPを使用することで隣接のルーターやアクセスポイントと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。
 RIPを使うと、RIPパケットがそのルーターやアクセスポイントのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。(初期値：する)
 変更内容を有効にするには、本製品の再起動が必要です。

IP経路情報

本製品がパケットの送信において、そのパケットをどのルーターやアクセスポイント、または端末に配送すべきかの情報を表示します。
 この画面には、[スタティックルーティング設定](P 54)で追加した経路も表示されます。

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
(1)	ネット(2)	ゲート(3)	エイ(4)	(5)	(6)
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

① 宛先.....

ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。

② ネットマスク.....

ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。

③ ゲートウェイ.....

ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。

.....次ページへつづく

8 各種設定画面について

8-3 [ルーティング設定]画面

IP経路情報(つづき)

④ ネット.....

宛先に対する経路情報が、有線LANまたは無線LANのどちらに設定されているかを表示します。また、「スタティックルーティング設定」(P 54)で追加設定したIP経路情報についても表示されます。

- local

経路情報がすべて単一のネットワークに設定されていることを意味します。

- ethernet

経路情報が有線LAN側であることを意味します。

- wireless

経路情報が無線LAN側であることを意味します。

⑤ 作成.....

どのように経路情報が作られたかを表示します。

- static

スタティック(定義された)ルートにより作成された経路情報です。

- rip

ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成された経路情報です。

- misc

ブロードキャストに関する経路情報です。

⑥ メトリック.....

パケットが相手に届くまでのルーターおよびアクセスポイント(あるいはゲートウェイ)数を表示します。

スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルで、登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、追加 ボタンをクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面にも表示されます。

スタティックルーティング設定				
登録の追加				
(1)	(2)	ネット(3)スク	ゲ- (4)エイ	メト(5)メ値
local				追加
現在の登録				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

① 経路.....

- local : 「ルーティングモード」(P 48)を使用しない場合に表示され、登録する経路情報がLAN側であることを意味します。
- ethernet : 「ルーティングモード」を使用する場合に表示され、登録する経路情報が有線LANであることを意味します。
- wireless : 「ルーティングモード」を使用する場合に表示され、登録する経路情報が無線LANであることを意味します。

② 宛先.....

選択した経路(ethernet/wireless/local)に応じて、その対象となる相手先のIPアドレスを設定します。

③ ネットマスク.....

選択した経路(ethernet/wireless/local)に応じて、その対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを設定します。

④ ゲートウェイ.....

ルーティングの対象となるパケット転送先(ルーターやアクセスポイント)のゲートウェイを入力します。

⑤ メトリック値.....

パケットが相手に届くまでのルーターおよびアクセスポイント(あるいはゲートウェイ)数を設定します。
0 ~ 16の値を入力します。
数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされます。

8 各種設定画面について

8-4 [本体管理設定]画面

管理者ID設定

管理者ID設定	
管理者ID ①	<input type="text"/>
管理者パスワード ②	<input type="password"/>
パスワードの確認入 ③	<input type="password"/>

① 管理者ID

ネットワーク管理者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
(入力例：AP3)
管理者IDを設定すると、次回のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。

② 管理者パスワード.....

大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
(表示例：*****)
入力する文字は、すべて「*」で表示します。
パスワードを設定すると、次回のアクセスからパスワード入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。

③ パスワードの確認入力

入力間違いを防ぐため、管理者パスワードを再入力する欄です。
(表示例：*****)

SYSLOG設定

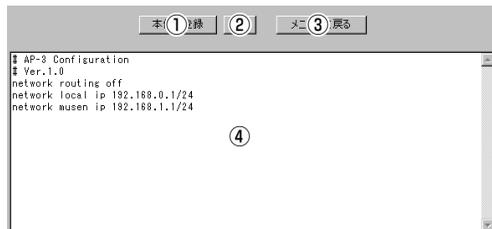
ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用してファイルとして一括管理ができます。これらの項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。

SYSLOG設定	
DEBUGを使①	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
INFOを使用 ②	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NOTICEを使③	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
ホストアドレス④	<input type="text"/>
ファシリティ ⑤	<input type="text" value="1"/>

- ① DEBUGを使用 各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。 (初期値：する)
- ② INFOを使用 INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。 (初期値：する)
- ③ NOTICEを使用 NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。 (初期値：しない)
- ④ ホストアドレス..... SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑤ ファシリティ..... SYSLOGのファシリティを入力します。 (初期値：1)
0～23の値を入力します。
通常"1 (user)"を使用します。

9-1 [設定保存]画面について

本製品に設定された内容を保存したり、書き込んだりする画面です。



① 本体に登録 ボタン

[設定保存]画面に表示する内容を、本製品の設定画面に書き込みます。

② 取消 ボタン

[設定保存]画面に表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③ メニューに戻る
ボタン

[無線LAN設定]画面に戻ります。

④ 表示エリア

本製品から[設定保存]画面を開くときは、本製品の設定内容を表示します。

設定内容の書き込み操作で、保存したデータファイルから開く(※P 59)ときは、保存されている設定内容を表示します。

9-2 設定内容の保存

現在の設定内容をハイパーテキスト(html)形式のファイルとして、ご使用のコンピューターのハードディスクやフロッピーディスクに保存するときの手順です。

- 1.有線または無線端末を本製品に接続します。
- 2.その端末から、WWWブラウザを起動します。
- 3.本製品の設定画面にアクセスします。
- 4.設定画面選択エリア(※P 34)の[設定保存]項目をクリックします。

- 次の[設定保存]画面を表示します。



- 5.上記画面の表示後、WWWブラウザの「ファイル(E)」メニューから、[名前を付けて保存(A)]をクリックします。

【おことわり】

Internet Explorer 5.0 (Windows版)を説明に使用しています。



- 6.[保存する場所(I)]を指定して、任意の名前を、[ファイル名(N)]のテキストボックスに入力します。
- 7.[ファイルの種類(I)]は、「Webページ、HTMLのみ」を選択します。

保存ファイルの漢字コードを選択できるWWWブラウザの場合は、JISを選択して保存してください。

8. 保存(S) ボタンをクリックします。

- 指定した場所に設定内容を保存します。

拡張子は、[.htm]または[.html]です。

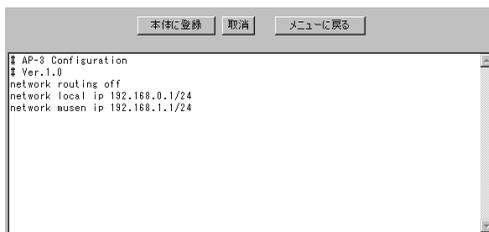
Macintoshで保存すると、拡張子は付きません。

9 設定の保存と書き込み

9-3 設定内容の書き込み

コンピューターに保存した設定内容を本製品に書き込む操作をするときの手順です。

- 1.有線または無線端末を本製品に接続します。
- 2.その端末から、保存したファイルのアイコンをダブルクリックします。
 - 次の[設定保存]画面を表示します。



3. 本体に登録 ボタンをクリックします。
 - 設定内容が書き込まれ、本体が再起動されます。
- 4.書き込まれた内容を確認後、設定画面を終了します。

内容編集時のご注意

表示エリアのネットワークIPアドレスを編集するようなときは、その項目に関連するほかの設定値についても同時に変更するようにしてください。

内容編集については、「取り扱い上のご注意」(P4)をお読みください。また、記載する操作の結果については、自己責任の範囲となりますのでご注意ください。

設定内容の初期化 10

ネットワーク構成を変更するときなど、本製品の設定をはじめからやりなおしたり、既存の設定データをすべて消去したい場合は、次の3とおりの方法で設定内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。

この章では、**A**と**B**について説明します。

A [INIT]ボタンを使う(☞P 60)

B 設定画面を使う(☞P 62)

C Utilityを使う(☞P 64)

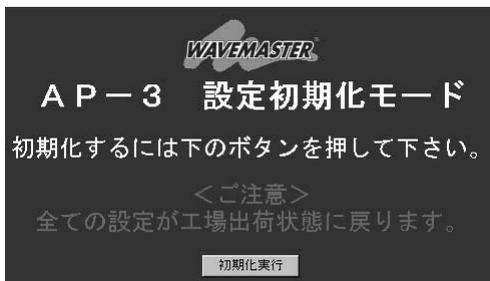
Utilityを使うには、付属のUtility Software ディスクからインストールしてください。

インストールの方法については、「付属ソフトウェアについて」(12章☞P 64)をご覧ください。

A [INIT]ボタンを使う

本製品に設定された本体IPアドレス(☞P 48)が不明なときなど、本製品の設定画面にアクセスできないときは、次の手順で初期化操作をします。

- 1.本製品と本製品の初期化に使う有線または無線端末を除くすべてのネットワーク機器を外します。
- 2.[INIT]ボタンを押しながら本製品の電源を入れるか、[INIT]ボタンを押しながら[RESET]ボタンを短く押し離します。
 - [LAN]ランプと **wireless LAN** ランプが同時に点滅します。
- 3.[POWER]ランプが点滅に切り替わったら、[INIT]ボタンを離します。
 - 「設定初期化モード」で動作中、[POWER]ランプは、ゆっくり点滅を繰り返します。
- 4.有線または無線端末を起動します。
- 5.端末からWWWブラウザを起動して、本製品の工場出荷時の本体IPアドレス(☞P 34)を指定します。
 - 次の「設定初期化モード」画面を表示します。

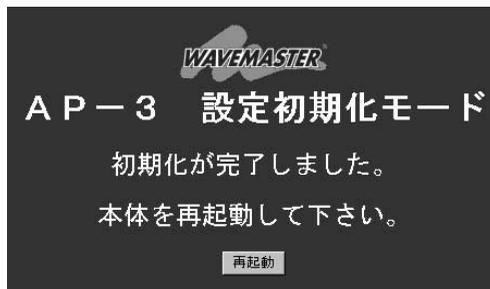


10 設定内容の初期化

A [INIT]ボタンを使う(つづき)

6.手順5.の画面で、 初期化実行 ボタンをクリックします。

- 次の画面を表示します。



7.上記画面の 再起動 ボタンをクリックします。

- 再起動中は、次の画面を表示します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

8.本製品の再起動が完了したら、[POWER]ランプが点灯状態に戻り、[無線LAN設定]画面を表示したら、初期化が完了です。

B 設定画面を使う

本製品に設定された本体IPアドレス(※P 48)を指定して、本製品の設定画面にアクセスできる場合は、次の手順で表示する[設定初期化]画面から、初期化範囲を選んで初期化操作をします。

1. 本製品と本製品の初期化に使う有線または無線端末を除くすべてのネットワーク機器の電源を切ります。
2. 有線または無線端末を起動します。
3. 端末からWWWブラウザを起動します。
4. 本製品の本体IPアドレスを指定して、設定画面にアクセスします。
5. 設定画面選択エリア(※P 34)の[設定初期化]項目をクリックします。
 - 次の[設定初期化]画面を表示します。

本体の設定を初期化し、必要に応じて再起動します。

- 全設定初期化 (全ての設定を初期化します)
- 無線部初期化 (無線部の設定を初期化します)

初期化実行

6. 画面から、該当する初期化条件のオプションボタンをクリックします。
7. 初期化実行 ボタンをクリックします。
 - 再起動中は、次の画面を表示します。

再起動しています。しばらくお待ち下さい。

8. 本製品の再起動が完了して、[無線LAN設定]画面を表示したら、初期化が完了です。

初期化条件について

- 全設定初期化
設定画面で設定した内容をすべて初期化します。
- 無線部初期化
設定画面選択エリアの[無線LAN設定]項目をクリックして表示する画面(8-1章)で設定できる項目すべてを初期化します。

11 ファームウェアの更新

ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、工場出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。

このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップを行うことがあります。

ファームウェアの更新操作を行う前に、本製品の設定画面にアクセスして、設定画面選択エリア内(※P 34)に表示するバージョン情報を確認してください。

更新することによって、機能の追加など、本製品を最良の状態に保つことができます。



バージョン情報

最新バージョンについて

ファームウェアアップデート用データファイルは、弊社ホームページで、提供しています。

URL=<http://www.icom.co.jp/>

定期的に弊社ホームページで、ご確認ください。

ダウンロード時のご注意

ダウンロードする際は、弊社ホームページのご利用ライセンス契約書をよくお読みください。

ほかの機種 of ファームウェアは使えませんから、誤ってダウンロードしないように、注意してください。

アップデートの内容によっては、ファームウェアを更新すると、設定内容の初期化が必要となることがあります。

このような場合、更新後、Utility(※P 65)を使って初期化してください。

本製品とコンピューターを1対1で接続して、安定した状態でデータ転送できるようにしてください。

更新のしかた

ファームウェアの更新は、本製品に付属のUtility Softwareディスクに収められたUtilityで行います。Utilityのインストールと操作方法は、「付属ソフトウェアについて」(12章)をご覧ください。

付属ソフトウェアについて 12

本製品に付属のUtility Softwareディスクに収められたソフトウェアの使いかたを説明します。

12-1 Utilityとは

本製品の設定内容初期化やファームウェアの更新に使用するソフトウェアです。

次のOSにインストールして、ご使用ください。

Windows 95、Windows 98

Windows 98SE

Windows NT4.0、Windows 2000

Windows Me

12-2 インストールのしかた

1.Windowsを起動します。

Windowsがすでに起動中で、実行中のアプリケーションがあるときは、すべて終了してください。

2.Utility Software(Disk1)と書かれたラベルのディスクを付属のフロッピーディスクドライブにセットします。

3.Windowsの スタート ボタンをクリックして、[ファイル名を指定して実行(R)]にカーソルを合わせてクリックします。

4.コマンドラインボックスに「フロッピーディスクドライブ名：¥Setup.exe」と入力して、[Enter]キーを押します。

●フロッピーディスクドライブの起動ドライブ名がAのときは、「A:¥Setup」と入力します。

5.画面の指示にしたがって、Utility Software(Disk2)と書かれたラベルのディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。

6. OK ボタンをクリックして、引き続き画面の指示にしたがって操作します。

7.インストール終了後は、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出します。

12 付属ソフトウェアについて

12-3 Utilityの使いかた

A 「Utility使用データ更新モード」での起動

【ご参考に】

ここで説明するモードで起動中は、無線LANセキュリティー(WEP機能)が設定されていても、自動的に無効になります。

Utilityと通信を行うには、次の手順で、本製品を「Utility使用データ更新モード」で起動しておく必要があります。

- 1.[MODE]ボタンを押しながら本製品の電源を入れるか、[MODE]ボタンを押しながら[RESET]ボタンを短く押し離します。
 - [LAN]ランプと **wireless LAN** ランプが同時に点滅します。
- 2.[POWER]ランプが点滅に切り替わったら、[MODE]ボタンを離します。
 - 「Utility使用データ更新モード」で動作中、[POWER]ランプは、速く点滅を繰り返します。

B コンピューターの接続

「Utility使用データ更新モード」で起動したら、Utilityがインストールされた有線または無線端末を1対1で接続して、起動します。

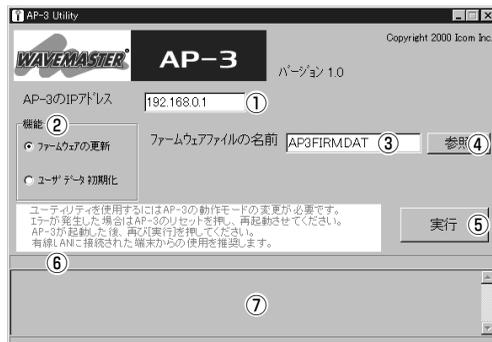
- 有線端末で接続時：[LAN]ランプが点灯します。
- 無線端末で接続時： **wireless LAN** ランプが点灯します。

稼働中のネットワークに接続する端末から、設定内容の初期化やファームウェアの更新を行うと、IPアドレスの競合など、不測の事態を招くおそれがあります。

C Utilityの起動

Windowsの スタート ボタンをクリックし、[プログラム(P)]にカーソルを合わせ、このUtility名にカーソルを合わせてクリックすると次の操作画面を表示します。

【AP-3 Utilityの操作画面】



▢ 操作のしかた

前ページの「AP-3 Utilityの操作画面」内の番号と対比させながら、Utilityの操作手順を説明します。

【重要事項】

本製品の設定内容の初期化やファームウェアの更新(☞P 66、67)に伴う再起動中は、電源を絶対に切らないでください。

途中で電源を切ると、本体のデータが消失して、まったく動作しなくなりますのでご注意ください。

画面の[⑦]部分に、「処理が完了しました。システムを再起動します。」と表示され、前面パネルのランプが、再起動する前の状態に戻るまでお待ちください。

▢ - 1 設定内容の初期化操作

【初期化の範囲について】

Utilityを使用する場合は、設定画面のすべての項目について、内容を初期化します。

【操作手順について】

- 1.本製品のIPアドレスを[AP-3のIPアドレス①]テキストボックスに入力します。(初期値：192.168.0.1)
- 2.[機能②]で、[ユーザデータ初期化]のオプオンボタンをクリックします。
3. 実行⑤ ボタンをクリックします。
 - 初期化の状況は、[⑦]部分に表示します。
前面パネルのランプが全灯(再起動)して、ランプの点灯状態が操作前の状態になると完了です。
通信に失敗すると、「AP-3が見つかりません」という内容のダイアログボックスが開きますので、次のことを確認してください。
 - 「Utility使用データ更新モード」(☞P 65)で起動していますか？
 - 本製品のIPアドレス(☞P 34)と[AP-3のIPアドレス①]テキストボックスに入力されたIPアドレスを同じにしていますか？
- 4.Utilityを終了します。

12 付属ソフトウェアについて

12-3 Utilityの使いかた(つづき)

回-2 ファームウェアの更新操作

ファームウェアの更新については、「取り扱い上のご注意」(P 4)をお読みください。また、記載する操作の結果については、自己責任の範囲となりますのでご注意ください。

【更新所要時間について】

ファームウェアのデータファイルを本製品に有線または無線端末から転送して、本製品の再起動が完了するまでの時間の目安です。

- 転 送 = 10秒 : 有線 / 30秒 : 無線
- 再起動 = 1分 : 有線/無線

【操作に関するご注意】(必ず、お読みください。)

ファームウェア転送時のエラー防止のため、Utilityがインストールされた有線または無線端末を1対1で接続後、以下に推奨する環境に設定しているかを確認してから、次に説明する手順でファームウェアを更新します。

有線端末から更新する場合

- 本製品に装着する無線通信LANカードを外すこと
- 更新に使う有線端末だけを接続すること

無線端末から更新する場合

本製品に有線で接続できる環境では、できるだけ有線端末からの更新をおすすめします。

- 本製品に接続するETHERNETケーブルを外すこと
- 更新に使う無線端末だけを接続すること
- 本製品との通信距離は、1m以内であること

【操作手順について】

- 1.本製品のIPアドレスを[AP-3のIPアドレス①]テキストボックスに入力します。(初期値: 192.168.0.1)
- 2.[機能②]で、[ファームウェアの更新]のオプヨンボタンをクリックします。
- 3.[ファームウェアファイルの名前③]のテキストボックスでデータファイル(拡張子: .dat)を指定するか、参照④ ボタンをクリックすると、オープンダイアログが開きますので、ハードディスクにダウンロードしたデータファイルを選択します。

.....次ページへつづく

4. 実行⑤ ボタンをクリックします。

- ファームウェアデータファイルの転送状況は、[⑥⑦]部分に表示します。

前面パネルのランプが全灯(再起動)して、ランプの点灯状態が操作前の状態になると完了です。

通信に失敗すると、「AP-3が見つかりません」という内容のダイアログボックスが開きますので、次のことを確認してください。

- 「Utility使用データ更新モード」(P 65)で起動していますか？
- 本製品のIPアドレス(P 34)と[AP-3のIPアドレス①]テキストボックスに入力されたIPアドレスを同じにしていますか？

5. Utilityを終了します。

【転送に失敗したら？】

Utilityの操作画面や本製品のランプが以下の状態になったときは、データファイル転送に失敗している可能性があります。

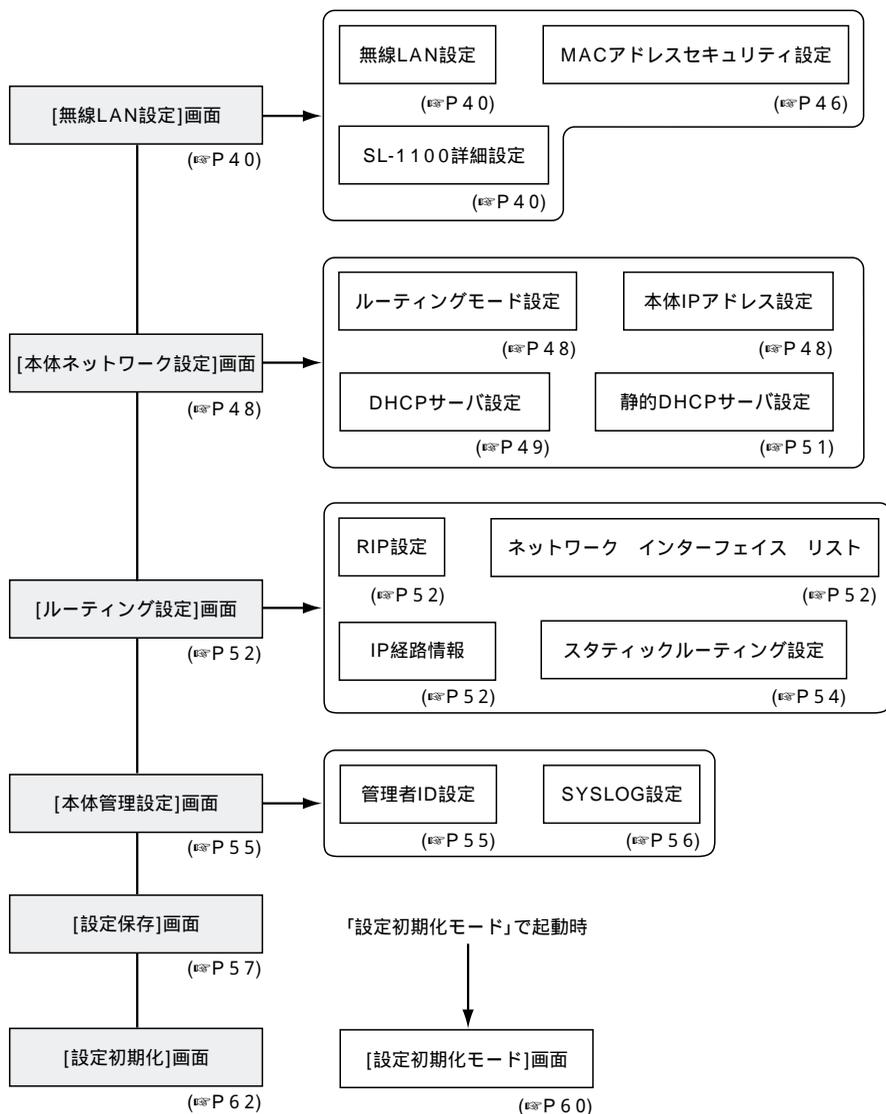
- Utilityの操作画面の[⑥]部(P 65)に、転送状況を示すバーが表示されなかったり、途中で表示が停止した場合
- Utilityの操作画面の最下部に、「データを転送中です」が表示された状態で、本製品の[LAN]ランプ点滅を繰り返したまま変化しない
- 「データの転送に失敗しましたAP-3を再起動させてください」という内容のダイアログボックスを表示している場合

本製品との通信に異常があると上記の状態になりますので、以下の内容を確認後、本製品を再起動してから転送し直してください。

- 有線端末に接続しているETHERNETケーブルの状態
- 無線端末と本製品との通信距離
- [LAN]ランプの点灯：有線端末使用時
- **Wireless LAN** ランプの点灯：無線端末使用時

13 設定画面の構成

次の図は、本製品の設定画面の構成を示しています。



14-1 設定項目の初期値について

本製品の設定画面について、工場出荷時の設定値を示しています。

[無線LAN設定]画面

無線LAN設定

- ESS ID : LG(半角大文字に設定)

SL-1100詳細設定

SL-1100設定

- チャンネル : 14
- セキュリティレベル : なし
- Rts/Ctsスレッシュホールド : なし

MACアドレスセキュリティ設定

- MACアドレスセキュリティを使用 : しない

[本体ネットワーク設定]画面

ルーティングモード設定

- ルーティングモードを使用 : しない

本体IPアドレス設定

有線LAN

- IPアドレス : 192.168.0.1
- サブネットマスク : 255.255.255.0

無線LAN

- IPアドレス : 192.168.1.1
- サブネットマスク : 255.255.255.0

DHCPサーバ設定

- DHCPサーバ機能を使用 : する
- リース期間 : 3日

有線LAN

- 割り当て開始IPアドレス : 192.168.0.1
- サブネットマスク : 255.255.255.0
- 割り当て回数 : 30

無線LAN

- 割り当て開始IPアドレス : 192.168.1.1
- サブネットマスク : 255.255.255.0
- 割り当て回数 : 30

[ルーティング設定]画面

RIP設定

- RIPを使用 : する

[本体管理設定]画面

SYSLOG設定

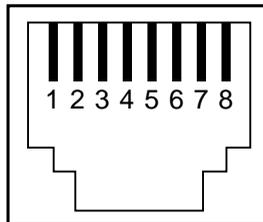
- DEBUGを使用 : する
- INFOを使用 : する
- NOTICを使用 : しない
- ファンリティ : 1

14-2 機能一覧表

- | | |
|------------------------------------|----------------------|
| ●無線アクセスポイント機能 | ●DHCPサーバ機能 |
| ●無線ローミング機能 | ●DHCPスタティック機能 |
| ●無線セキュリティ
(ESS ID、MACアドレス、WEP) | ●SYSLOG対応 |
| ●ルーティングプロトコル
TCP/IP(RIP スタティック) | ●リモートセットアップ(WWWブラウザ) |
| | ●ファームウェアの更新機能 |

14-3 [ETHERNET]ポート

RJ-45型モジュージャック(8 pin) × 1



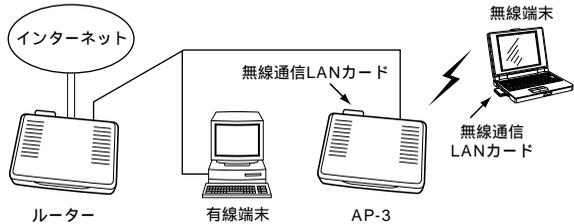
- 1.送信(+)
- 2.送信(-)
- 3.受信(+)
- 4.未使用
- 5.未使用
- 6.受信(-)
- 7.未使用
- 8.未使用

14 ご参考に

14-4 基本設定例

無線・有線LAN間を同一サブネットで構成する場合の設定例を、次の図を使って説明します。

その他の設定項目については、ご使用のネットワーク環境に応じて設定してください。



【ルーター：条件】

- DHCPサーバ機能 使用する
- ルーターの IPアドレス 192.168.0.1

【AP-3：条件】

- ルーティングモード： 使用しない
- AP-3のIPアドレス 192.168.0.2
- DHCPサーバ機能 使用する
- 割り当て開始 IPアドレス 192.168.0.50
- RIP：使用しない

【設定のポイント】

右記画面の[有線LAN]側の設定だけ行います。

[割り当て開始IPアドレス]は、ルーターの割り当て範囲と重複しないように設定します。

ルーターのIPアドレスを[デフォルトゲートウェイ]と[プライマリDNSサーバ]に指定します。

[RIP設定]は、直接設定に影響はありませんが、「しない」を設定することで、不要なトラフィックの発生を防ぐことができます。

[本体ネットワーク設定]画面

ルーティングモード設定
ルーティングモードを使用 しない する

本体IPアドレス設定

	有線LAN	無線LAN
IPアドレス	192.168.0.2	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0

※無線側の設定はルーティングモード時のみ有効

DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能を使用 しない する

	有線LAN	無線LAN
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.50	192.168.1.10
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0
割り当て個数	30 個	30 個
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.1	
プライマリDNSサーバ	192.168.0.1	

[ルーティング設定]画面

RIP設定
RIPを使用 しない する

有線端末は、IPアドレスをルーターまたはAP-3より取得します。

無線端末は、IPアドレスをAP-3より取得します。

14-5 応用設定例

【ルーター：条件】

- DHCPサーバ機能
使用する
- ルーターの
IPアドレス
192.168.0.1
- RIP設定
LAN側にRIPを使用する
- DNSサーバの代理応
答：する

【AP-3：条件】

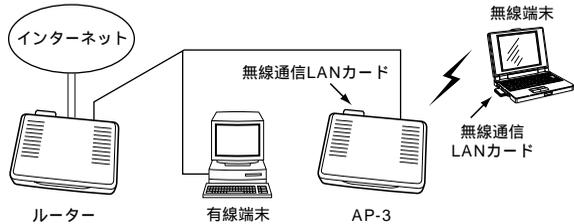
- ルーティングモード：
使用する
- AP-3のIPアドレス
192.168.0.2
- DHCPサーバ機能
使用する
- 割り当て開始
IPアドレス
192.168.0.50
- RIP：使用する

【設定のポイント】

右記画面の[有線LAN]側と[無線LAN]側の設定を行います。
[割り当て開始IPアドレス]は、ルーターの割り当て範囲と重複しないように設定します。
AP-3のIPアドレスを[デフォルトゲートウェイ]に指定します。
ルーターのIPアドレスを[プライマリDNSサーバ]に指定します。

無線-有線LAN間を異なるサブネットで構成する場合の設定例を、次の図を使って説明します。

その他の設定項目については、ご使用のネットワーク環境に応じて設定してください。



[本体ネットワーク設定]画面

ルーティングモード設定
ルーティングモードを使用 しない する

本体IPアドレス設定

	有線LAN	無線LAN
IPアドレス	192.168.0.2	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0

※無線側の設定はルーティングモード時のみ有効

DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能を使用 しない する

	有線LAN	無線LAN
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.50	192.168.1.10
サブネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0
割り当て個数	30 個	30 個
デフォルトゲートウェイ	192.168.0.2	192.168.0.2
プライマリDNSサーバ	192.168.0.1	192.168.0.1
セカンダリDNSサーバ		

[ルーティング設定]画面

RIP設定
RIPを使用 しない する

有線端末は、IPアドレスをルーターまたはAP-3より取得します。

無線端末は、IPアドレスをAP-3より取得します。

RIPによって作成された経路情報が[IP経路情報]画面に表示されます。

15 保守について

本製品への接続を確認するには

それぞれのステーション(端末群)のIPアドレスを正しく設定できていれば、IPパケットが通信先に正しく届いているかを、相手のステーションを“ping (ピング)”することによって簡単に確認できます。

この確認を行うには、MS-DOSのウィンドウを開き、下記のコマンドを入力します。

```
“ ping xxx.xxx.xxx.xxx ”
```

xxx.xxx.xxx.xxxには、本製品のIPアドレスを入力します。

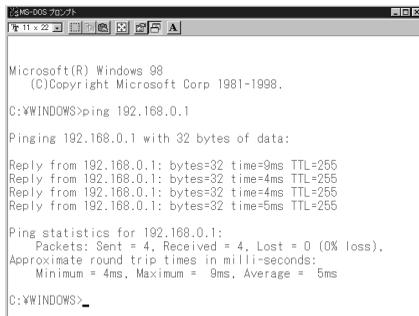
これによって4回ピング(エコー要求)が送出され、それに対して応答メッセージが返ってきます。

“reply”が返ってこない場合は、ステーションのプロトコルの有無や無線通信LANカードの設定(Network Mode、ESS IDなど)を確認してください。

お互いのIPアドレスとサブネットマスクが正しく設定されていないと、“destination unreachable”を表示します。

pingコマンド実行例(正常な場合)

Windows



```
MS-DOS プロンプト
Microsoft(R) Windows 98
(C) Copyright Microsoft Corp 1981-1998.
C:\WINDOWS>ping 192.168.0.1
Pinging 192.168.0.1 with 32 bytes of data:
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=9ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=4ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=4ms TTL=255
Reply from 192.168.0.1: bytes=32 time=5ms TTL=255
Ping statistics for 192.168.0.1:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 4ms, Maximum = 9ms, Average = 5ms
C:\WINDOWS>
```

故障のときは

- 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とコンピューターの設定などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

17 定 格

一般仕様

- 入 力 電 圧 : DC 12V標準(DC 11 ~ 16V)
ACアダプターBC-123(付属品)は、AC 100V ± 10%
- 消 費 電 流 : 600mA(最大)
- 接 地 方 式 : マイナス接地
- 外 形 寸 法 : 230(W) × 38(H) × 167(D) mm(突起物を除く)
- 重 量 : 約 700g(付属品を除く)
- 使 用 環 境 : 温度 0 ~ + 40 、湿度 0 ~ 95%(結露状態を除く)
- 電 取 認 可 番 号 : ▼ 91-53055 [ACアダプターBC-123]

有線部

- LANインターフェイス : ETHERNET部 : [ETHERNET]ポート(RJ-45型) × 1
極性反転スイッチ有り
IEEE 802.3/10BASE-T準拠
IEEE 802.3u/100BASE-TX準拠
無線LAN部 : 弊社無線通信LANカードをPCMCIA
スロットに装着
PCMCIAスロット(3.3V仕様対応)
PCMCIA(TYPE)準拠
- 通 信 速 度 : ETHERNET部 : 10/100Mbps(自動切り替え)
無線LAN部 : 11 Mbps(Max)
11 Mbps対応製品を装着時
- ル ー テ ィ ン グ 方 式 : スタティック/ダイナミック(RIP)
- ユーザインターフェイス : 状態表示ランプ: 3個(POWER、LAN、Wireless-LAN)
[HUB/PC]スイッチ(ETHERNET極性切り替え用)

定格・仕様・外観等は改良のため予告なく変更する場合があります。

無線通信LANカード対応表

本製品とコンピューター側に異なる弊社製無線通信カードを装着してご使用になる場合は、次の表を参考にしてください。

本製品とコンピューター側に同じ無線通信LANカードを装着して通信を行う場合は、弊社製すべてに対応します。

AP \ PC	SL-11	SL-1100	SL-1105	SL-200	SL-100	UX-136
SL-11				×	×	×
SL-1100				×	×	×
SL-1105				×	×	×
SL-200	×	×	×		×	
SL-100	×	×	×	×		×
UX-136	×	×	×		×	

「AP」とは、本製品を意味します。

「PC」とは、コンピューターを意味します。

WEPセキュリティに対応するのは、SL-11、SL-1100、SL-1105だけです。

(2001年5月現在)

18 用語解説

DHCPサーバ

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)は、TCP/IPというネットワーク上で、クライアントがサーバから必要な情報を自動的に取得するプロトコルです。

DHCPサーバは、ネットワーク情報として、“IPアドレス”、“デフォルトゲートウェイ”、“ドメイン名”などを管理しています。

DHCPサーバ機能を持つ本製品は、DHCPクライアント(コンピューター)が起動すると、IPアドレスやデフォルトゲートウェイ、DNSアドレスなどを割り振ります。

DNS(Domain Name System)

TCP/IPネットワークにおける名前解決サービスのことで、

DNSにしたがって、ドメインネームサーバにコンピューター名やドメイン名を登録して、ドメインネームサービスを提供しています。

ドメインネームサービスを利用すると、IPアドレスなどの数字ではなく、分かりやすいドメイン名やホスト名で、目的のサイトを指定できます。

ESS ID(Extended Service Set-Identifier)

無線LANで、複数のネットワークグループを通信可能なエリア内に形成するときの識別用の名前です。本製品と通信する無線ネットワークグループは、無線端末を本製品と同じ識別名に設定します。

ETHERNET

ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発されたLANの通信方式です。使用するケーブルによって、10BASE-T、10BASE-5、10BASE-2などのタイプがあります。

HTML(Hyper Text Markup Language)

WWWサーバでのドキュメントを記述するための言語で、通常文書の中にタグを埋め込んでいく方式で作成されます。

WWWページを記述する言語として利用されています。

IP(Internet Protocol)アドレス

TCP/IPプロトコルを使用して、構築されたネットワークにおいて、接続しているすべての機器を区別するために付ける32ビットのアドレスです。

通常は、8ビットずつ4つに区切って、10進数の数字列で表されます。(例：192.168.0.1)

また、プライベートIPアドレスは、ネットワー

クの管理者が独自に設定するIPアドレスです。

アドレス管理機関やプロバイダーに、申請を行う必要はありませんが、以下の規則従って割り振らなければなりません。

外部のネットワークと接続する場合にはアドレス変換を行い、グローバルIPアドレスに変換する必要があります。

次のIPアドレスをプライベートIPアドレスとして、自由に使用できます。

クラスA：10.0.0.0～10.255.255.255

クラスB：172.16.0.0～172.31.255.255

クラスC：192.168.0.0～192.168.255.255

LAN(Local Area Network)

同一フロアや敷地内の比較的小さな規模のネットワークのことで、

MACアドレス

(Media Access Control Address)

個々の有線または無線通信LANカードに設定されている物理アドレスです。

このアドレスは、LANカードの製造メーカーが世界中で重複しない独自の番号で管理しています。Ethernetでは、このアドレスを元にしてフレームの送受信をしています。

RIP(Routing Information Protocol)

ルーター間で、経路情報を交換するTCP/IPネットワークで使用されるプロトコルです。

この情報をもとに、ルーターはバケットを正しい相手に送出します。

SYSLOG

システムメッセージをネットワーク上に出力する機能です。

この機能に対応していると、UNIXなどのSYSLOGサーバによって、ログ情報を管理できます。

TCP/IP

Windows95/98、WindowsNTなど、主要なOSでサポートする現在最も普及したインターネットの基本プロトコルです。

SMTP、FTPなどは、このプロトコルを利用しています。

Open Transportを搭載したMacintoshには、TCP/IPコントロールパネルが標準で搭載されています。

URL(Uniform Resource Locator)

インターネット上のホームページなどにアクセスするために指定します。

弊社URLは、<http://www.icom.co.jp/>です。

WWWブラウザソフト

WWWホームページを閲覧したり、WWWサーバを検索に使うアプリケーションです。

アプリケーションには、「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」があります。

10BASE-T(テンベース・ティー)

100BASE-TX(ヒャクベース・ティーエックス)

ツイストペアケーブルを使ったETHERNETの接続方式のことです。

10BASE-Tの[10]はETHERNETの伝送速度10Mbpsを、[-T]はツイストペアケーブルをそれぞれ表わす。

カテゴリ5のツイストペアケーブルを使うと、100BASE-TXでも使用できます。

アクセスポイント

有線LANと無線LANを接続する機器の総称です。

クライアント

ネットワークにおいて、サーバに対し情報の提供などのサービスを要求し、その返答を受ける端末またはアプリケーションの総称です。

グローバルIPアドレス

インターネット上のどの機器とも重複するものがない世界で唯一のアドレスです。

サブネットマスク

1つのIPアドレスをネットワークアドレスとホストアドレスに区別するために使用します。

あるホストのIPアドレスが「192.168.0.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」とすると、IPアドレスとサブネットマスクを2進数にして掛け合わせると、ネットワークアドレス「192.168.0.0」となり、のこり「1」がホストアドレスになります。

トラフィック

ネットワーク上のパケットの流れやネットワークの回線にかかる負荷(データ量)のことです。

トラフィックが大きくなると、データ転送の遅れやデータ欠落が起こる可能性があります。

ネットワーク

データなどを転送するために、サーバ、ワークステーション、コンピューターなどの機器が、ケーブルや電話回線を介して、通信網と接続された状態をいいます。

パケット

データが送受信されるときの単位です。

送受信に必要な情報を持つヘッダ部と、送りたいデータそのものであるデータ部から構成されています。

パスワード

ネットワークセキュリティ上、ユーザーがネットワークにアクセスするために入力する鍵となる文字列で、パスワードを設定すると、ユーザーがあらかじめ設定された文字列を正しく入力したとき、アクセスが可能になります。

ハブ(HUB)

本製品などを使用して、ネットワークを構築するときに必要な装置です。

10BASE-Tまたは100BASE-TXケーブルを使って本製品と接続します。

100Mbpsで通信をするときは、カテゴリ5のツイストペアケーブルを使用すると同時に、HUBも100BASE-TXに対応している必要があります。

フラッシュメモリ

本製品が持つ書き込みが可能な記憶装置です。

ここに貯えられた情報は電源を切っても消えないで保存されます。

プロトコル

通信で、データの送受信を行うときにしたがうべき手順の定義です。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。